● 振替貯金口座番號 東壹壹弐八壹番 ● 電話番町一五二〇 一七四五番

愛國婦人

毎月五日二十日發行
金六錢半年分參拾六錢全國無遞送料
廣告料一行六十錢
本號全部拾貳頁
東京麹町區（牛ケ淵公園）發行所 愛國婦人發行所
發行兼編輯人 山澤俊夫
印刷人 大久保高明

社說

故中山一位局

英國の詩人コールリッヂ曰く、人間出生前九ケ月の歴史は、恐らく其一生涯に起る如何なる出來事よりも、一層興味あり、一層重要なる出來事を含むならんと。嘉永五年の前十ケ月は、明治の大業、開國、新文明、日清戰爭、日露大戰爭、世界の一等國、國運の長久、皇室の御繁榮、御代萬々歳、一口に言へば、日本建國以來破天荒の盛事偉業を以て充滿されたる明治の御代を、世界に出現せしむべき準備の十ケ月なりき。勤王、佐幕、外敵暗殺、鮮血と、不思議の運命に揉まれて、日本は暗黑擾亂の裡に漂へる際、一婦人は、雲霧を拂ひて、光明ある新日本を出現せしむべく、靜かに京都の一隅に、その重き身を養護せるなりき。實に母としての婦人は、世界の歴史を作るものなり。

嘉永四年四月十一日より明治四十年十月五日までの、故中山一位局の歴史は、また國家の歴史なり。男女を通じて何人か、皇室の御繁榮、國運の消長を、故一位局より一層痛切に、一層誠實に感じたる。其維新前後數十年の公生活は、男子としてもなほ或は堪ふべからざる變化多く辛勞多き生活なりき。その間に在りて、氣丈の精神と不撓の忍耐と、燃ゆるが如き忠誠の情とを以て、始終一日の如く、皇室と國家の爲に盡されたる一位局は、實に日本婦人の典型にして、二千餘年來日本が養ひ來れる婦人の美質を、最も見事に發揮せられたるものといふべきなり。然れども、人物は偶然に出でず。局の父君中山忠能卿は、頗る豪膽なる勤王家にして、母君愛子の方もまた賢明の聞え高かりしといふ。此優秀なる兩親より受けられたる資質に加ふるに、維新前後數十年の國家の運命を鍛へたる大鉗鎚の鍛錬を以てす。この一位局を作り出せる偶然にあらずといふべし。而して局が皇儲を御二方まで御養育申上げられたるは、實に空前の御事にて、局として、婦人として無上の光榮たるは申すにも及ばず、斯る運命が、餘人ならぬ局に降り來れることは、皇室及び國家の一大幸慶なりといふべし。

責任を自覺して、最もそれに忠實なることは、人格の精華にして、人間の靈性美質の依りて發現せらるゝ所のものなり。局が皇子の御生出に對する責任と、御二方の皇儲御養育に對する責任とは、凡そ責任中の最大最眞面目なるものにして、如何に局がこの責任を完ふせんが爲に焦慮辛勞せられしかは、蓋し想像するに難からざるなり。責任は人を大にし、又眞面目にす、况んや局の擔へるが如き大責任においてをや。その局が敬神の念最も厚く、皇室に對する誠心最も熾んに、且甚だ嚴格にして規則正しき方なりしは、固よりその結果なりといふべし。

高貴なる人は、往々下情に通せずといはる。局は然らず、局は嘉永の初年迄京都在なる八瀬の山里にありて農家の生活を營まれたれば、よく下情に通じ、憐みの心深く、古人に厚く、侍女門番御出入の者に至るまで、慈みを掛けられて、長く召使はれたるが如き、局の美德に一層の光を添ふるものといふべし。

要するに局は、日本婦人の模範にして、その美德の權化ともいふべし。局の事歷は、或は空前絕後にして、如何に他の婦人が模倣せんとするも能はざる所なるべし。然れどもその精神と德とは、時代の新舊を問はず、位置の高下を論ぜず、日本婦人の常に模範として、努力の目標として、仰ぐべきものなり。今や我が國は、この大なる局を喪ふ。誠に痛嘆に堪へず。こゝに謹んで哀悼の意を表し、所感を述ぶと云爾。（御喪儀後一日拜記）

家内

文學博士　三宅雄次郎

妻を「家内」と呼ぶは、おのづと、女の家内の事を旨とすべきを意味するかに思はる。

女は家内の事をつとむべきにありとせらるゝは、家内の事に勉むべきであつても、家外の事を、勉めてはならぬといふ事ではないのである。勉め得らるゝなれば勉めるがよい、社會の事物が複雜になつて女のなすべき範圍も廣くなつて來た事であるから、家外にもなすべきことも増して來たのは言ふまでもない、或點に於ては、家外になすの多きは、社會の進歩を示すのである。近來婦人方が家外のことにたづさはつていろ〳〵盡力あるは頗る嘉すべきことであるが、云はゞ女の仕事は家内が主であつて、家外は從である、家内が整うて然る後家外に及ぼすべきである、元より多數の中には、家内の事よりも家外の事に勉むるの適當な婦人もある、一般より云へば家内を先きとすべきである、社會進歩の實況は、婦人をしておのづと家外の事に勉むるの傾向を生じて來るは止を得ないのである。

家内が整ふにも程度のあることで、十分と云へば際限ないかも知れぬ、それ程の事でなくてもよいのであつて、先づどの位と云ふに、二つの注意すべき事がある。一つは良人が妻をおくか藝者等に對して之と同樣のことを爲す間はよくない、家内のことを主るものは當然爲すべきをなして居ればかゝる事があり得べきでない、かゝることがあるは即ち家内の務に缺けて居るからである、如此有樣のつゞく間は家外にたづさはる餘地のないものと認むべきである。二つは主人が不德の評判を受けて居る間はよくない、愚であるとか、無能であるとかの評判はさしつかへない、之に氣をつけるは女の爲すべき領分ともせぬが、不德である中にもその薄情とか、きたないといはるゝが如きは、女の手加減にて、ある程度まで矯す事が出來る、外貌のみ立派で、心は盜賊と同じと見らるゝが如き間は、家内の勉むべきもの家内に專らであつて外に及ぶべき餘地がないと思ふ。元より評判は當てにならぬものではあるが火のない處に煙はない、よく此邊に愼むべきである。

家内の任に當るものは、此二つの事故の嫌がなければ、外に出て働けば働く程、人たるの職分を盡すことになるが、多數の中にはこの二つの注意すべき事故に盡さぬばかりでなく、己れ自ら指さゝる事をして、尚ほ平氣に外に出て、活動をして居らるゝ人もある、若い者は少も顧慮する處なく何でも飛び廻はればよいと心得る樣になる恐れがある、今日時として、いかがはしい婦人が、恬として耻ぢざるが如く見ゆるのは、どれ丈かまだ社會が健全にならない處があるからであらう、若し今の機に多くの婦人が唯名聞を好みて、勉むべきを勉めざるか如き有樣であるならば、社會は進んで之を別に矯正するの方法を講ぜねばならぬ樣になつて來るであらう。世の進歩につれて、家外に活動すべき範圍が多くなると共に、之に伴うてくる弊を忘れてはならぬ。女子の地位を高むべきは、屢々云はるゝことであるけれども、地位を高むると共に品位を高むる必要があるが、今日相當の地位にあるものにして、品位の下劣なる者の例を擧ぐるに苦しまない有樣であるは、甚だ遺憾とすべき處である、世の進歩につれて、改むるに相違ないが、なるべく早く改まる樣ありたいものである。

樂堂

服部嘉香

華やけき　電燈は
悉く　ふと消えぬ——
黄金白銀鏤めし
光の宮は忽然と
水の底なる土牢の
暗とはなりぬ、夢の色
樂人は　手をとめて
疑ひの　息呑みぬ
茂り葉漏れて暗愁の
波そゝぎたる三日月は
花なる人の花粧
沈める靑き色に染め
樂堂の　人々は
さゝやきを　耳にしぬ
あるとしもなき羽ばたきの
波はゆららにみなぎりぬ
紅、みどり、紫の
彩さまざまの環は飛びぬ
恍惚と　醉ひしれし
眼に見たる　樂の音や
壁繪は古りし色浮べ
繪かれたりし天童も
小さき竪琴手にとりて
思ひ思ひに舞ひ出でぬ
華やけき　電燈は
ことごとく　輝きぬ——
ふと幻はかき消えて
また現實の樂の音や
今更めきし聲に
人の面もはればれし

◎韓國委員本部救護部員の同地衛戍病院内に於て救護に從事せる實景を寫眞附錄として添ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

我同盟國に於ける所感（承前）

子女の教育——姉妹の交際——上流婦人の交際振り

理學博士 男爵 菊池大麓

それから女子教育と云ふことに就ても、彼國て講演いたしました。即ち日本の家庭の方から論じて、日本の女子は家庭を本として、子女の養育、長者の看護と云ふことに就いての教育も總て其方法を以てやつて居る。であるから此點に就いては日本のやり方と英國のやり方と違ふ。別に英吉利人のことを惡くは言ひませぬが、英吉利の婦人より日本の婦人の方が子女の教育に力を盡すことが多い。從つて子女が老父母に事へる所の道も餘程厚いやうに思ふ。總て社會の成立が家庭家族と云ふ下に立つて、個人の下に立つて居らぬから、此點に於ては英吉利人と違ふと云ふ說明をしましたが、併し英吉利人もさう云ふ教育をやつて居る者もあるし、決して惡くは言ひませんが、今英吉利人がさうならうと云ふことは些とむづかしからうと思ふ。

又此子女の教育と云ふ事に就ても、中以上になると、子供のことは大抵姆に任してありまして、此姆が子供のことは引受けて居りますから、どうしても日本の婦人よりは交際社會などへ出ることが多い、又子供も九歲十歲位になると寄宿舍に入れると云ふやうにする、日本ではさう云ふことはやらない、尤も十二才以上になつて、中學校へ入るやうにでもなれば、他へやることもあると云ふ話もしましたが、其等に就ては餘程感じたことだらうと思ふ。

それから私の非常に懇意にして居る朋友があつて、總て子供は私が手許て教育して居ると細君が言つて居りましたが、其家が私が中學校時代からの朋友て、向うへ行たら手紙を遣して迎ひましたが、土曜日毎に乾と話に來ましたが、招待も何もするのぢやない、土曜日には、乾、會ふと云ふことになつて居りまして、他に約束てもあると斷ると云ふことにして居たてすが、其家などては子供が三人あつて、皆相應に教育をやつて居りますが、其總領の女の子などは、私は醫者になるなどと言つて居りました。

て、婦人が子女に對して、少しも構はないかと云ふとさうではない、矢張自分て監督はして居る、併し英吉利の上流社會と云ふものは、皆派手な交際の爲に殆と子供や家庭のことは構はぬてやつて居ると云ふ有樣てす、從つて結婚と云ふことが少くなる、それ故餘り日本などても婦人が出歩くことは奬勵したくないと思ひます。婦女子のことを言ふと長くなるし、大問題であるから、此次に機會を見て話をしませう。（完）

歐米婦人觀一斑（承前）

米國婦人記者との問答（其二）

山本大將副官 海軍中佐 加藤寛治

是れは米國とか或は英吉利とかに於ては、隨分婦人の教育も發達して居るし知識も發達して居る所から、所謂婦人自身の力を以て、會の組織もし、會の經營もやつて居るだらうけれども、日本の程度に於ては、中々むづかしい、併しさう云ふのが實際にポツ〳〵見えて來たやうてす。

それから政治問題に携はる婦人が有るか無いかと云ふ質問てすが、幸に日本の婦人は能く天職を守つて居る所から、先づ今日までは、政治問題などに頭を突ッ込む人は、先づ絶對に無いと言つても宜い。將來のことは知らぬが、自分の考ては將來に於ても必ず其天職を全うすることであらうと思ふ。

それから理想の日本婦人はと云ふ、是は中々むづかしくありました。此答は日本人全體の答てなくて、私一個の考を以て申せばと云ふ前提を置て、日本の婦人と云ふものは、家庭を——即ち最も愉快なるホームを作つて、其主人公をして後顧の憂なからしめて、外に在つて其人の力の全能を發揮し得るやうにするのが即ち理想の日本婦人であると云ふことを言うた。是は最も日本婦人の長所であつて、失禮ながら外國に於ては、日本婦人ほど愉快な家庭を作り得る婦人は見ないと云ふことを答へました。それでもう一つ先方の問題を言ひ殘しましたが、最後の問題は亞米利加婦人に對してのあなた方の所感はどうかと云ふ問。是は又むづかしかつた。是は斯う云ふ答を致しました。誠に遺憾ながら亞米利加の婦人に向ッては親しく御交際する所の機會を得ませぬものですから、此答を申上げることが出來ないのは非常に遺憾と思ふ。斯う答へたのです。所が翌日の新聞に其事を書いて置いて、末項の問題に至つて答辯者は白旗を上たと云ふことを書き立てました。それで自分が誠に汗顔に堪へなかつたのは翌日の新聞に私の言うたことを大將が談話されたことにして出て仕舞つた。

マア今度の經過はさう云ふ風てありまして、殊に殿下の英吉利御滯在中も公式の晩餐會のみてあつて、別に舞踏會と云ふやうなことはありませぬでした。是は日本の習慣でないと云ふことで、特に向うて催しを避けられたのであらうと云ふことを想像しました。それが爲に宴會などて婦人に接したことは澤山ありませぬが、却つて今のやうな公爵家に泊つて居つて英吉利の上流の家庭の模樣を見たのは今度が初めてあります。公爵の家は立派な城ですから、銘々に立派な部屋を與へて、部屋廻りの者が一人に一人宛附いて世話して貰ふと云ふやうた風で、毎日晩餐だけは殿下の爲に主人及び夫人令孃皆禮服で、此方も無論のこと燕尾服に勳章やら大綬を着けてやられると云ふやうな譯で、三泊して居る間三晩ともさう云ふ工合であります。それで食事が濟むと家庭の者が前にお話した通り皆の對手をされる、丁度蘇格蘭ては有名な『ハイランダーダンス』と言ひまして、兵隊が踊りをする、それなども食後に御覽に入れたのです、其兵は樂隊てした。「ハイランダー」のハイパアと云ふ、能く日本て飴屋が妙な笛を有つて居る、あれを澤山合せたやうな笛て、隨分古くからある蘇格蘭人の珍重する樂器です、其れを持つて兵隊が泊りがけて居つて、食事の時には入口に整列して、食事にお就きになると笛を吹いて興を添へる、食事が濟むと夫人や家族の者が集つた所で踊りを御覽に入れると云ふやうな風て、極く圓滿な趣味を與へられた。人數は公爵夫婦と令孃、令息、他に陸軍の將官夫婦などが手補けに來て居りましたです、餘り澤山居ると內輪的の接伴が出來ないからでせう。

それから獨逸ではワルデルゼー伯の處に往きました、此人は北清事變の時に聯合軍の指揮官になつたワルデルゼー元帥の相續者て元帥が死なれて今は未亡人と相續人たる伯爵とが居られる。大將は態々元帥の墓に參詣して立派な花を進げて、アトて家族の所に往つて其處て午餐を共にされました。こゝては獨逸風で多少違つた所もありますけれども、元帥の夫人は亞米利加人てありまして、極く英語も流暢に話されて大變能く歓待してくれたてす。其時に面白いことを未亡人が言はれた。大將が元帥の墓に參詣した時に、非常に丁寧に未亡人に挨拶をされた、其答に夫の故元帥は獨逸語で『オーフイーデルゼン』佛語の『オールバール』と同じて、又の機會をと云ふ、簡單に言ふと再會を希望すると云ふ言葉が好きて始終口にして居つたが、今や我が夫は天に在つて安樂に眠つて居るだらうが、『オーフイーデルゼン』と云ふ言葉が好きてあつただけ自分も未だに其言葉を忘れないと共に夫の其言葉が實行されて近き未來に夫に再會することを非常に望んで居る、詰り天に上つて早く夫に逢ひたいと云ふ言葉てあります、是は日本の婦人が言ひさうな言葉て、外國の婦人からさう云ふ言葉を聽くのは珍しいです。山本大將が元帥の墓に參詣せられた理由と云ふものは、ワルデルゼー元帥が伏見て服部中佐の墓に參詣されたことがあるものてすから、此元帥の特殊の同情に酬いむが爲に大將自ら足を枉げて墓に參詣された次第であります。（完）

人間は有情の動物なり區々瑣々たる禮儀こそ即ち人心を最も深く感動するものなり故に之を金錢に譬へて言へば人をして最も感佩せしむるは五厘貨幣一枚を進物するに在り十錢貨幣を以て換金を爲すが如きは之をして感佩せしむるの度遙かに少なしと云はざるを得ざるなり　（プローメス）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

官營煙草に就て(第百卅五號に續く)

煙草專賣局長　仁尾惟茂

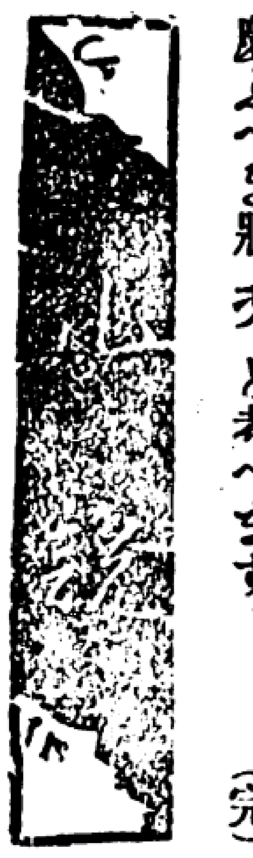
凡そ租税は何にても均一に賦課して、人民をして疾苦なからしむるを原則とすれども、此筆法にて嗜好物にも田畑の租税の如く、一幷に課税すれば却て嗜好せぬものに重税を課することになるから、酒とか煙草とかには、其酒や煙草に税を課して、それを嗜好するものに税を納めさすると云ふ譯で、良き煙草を多く喫用すれば、それだけ多額納税者になる譯で、國庫の收入を增します。頃日政府が煙草專賣によりて、收むる國庫の收入は、實に一ヶ年純益金三千餘萬圓の多きに上ります。此勢を以て進みますれば、多年ならずして四千萬圓の純益を得るやうになると考へます。此純益はどうして得らるゝかと云へば、政府は煙草の營業を爲すに、資本が五百萬圓で、此資本を利用して、百姓が耕作したる葉煙草年額千二百五十餘萬貫匁(此作付段別三萬八百餘町歩にして此耕作人員二十三萬六千四百餘人、平均一人當耕作段別一段三畝餘歩にして、一段歩より平均葉煙草四十貫餘匁を穫る勘定にて、政府に買上代金が平均一段歩三十餘圓に相當するを以て、一人當平均三十九圓餘に當る)を買入れ、之に一千六百萬餘圓を拂ひます。尚此他外國で出來る葉煙草凡そ年額七十二萬餘貫匁を輸入して、之に凡そ百八十五萬餘圓を支拂ひたる上、以上述べたる各製造工場にて煙草に仕上げるのです。此製造仕上げも皆悉く機械で出來るなればよけれども、まだ悉くそれまでにはなりませず、どうしても一分業毎に手工の巧によりて一々せねばなりませぬ事が多くあります。又同じ一種の煙草を造れば一向造作もないことですが、刻煙草にても其種類が七種ありて、又各種夫々包みの分量が違ひますから、中々一ト通りの骨折りではありませぬ。昨年四月から今年三月までに製造したる刻煙草數量實に六百二十餘萬貫匁であります。刻煙草の外口付紙卷煙草も六種ありますが、是又同じく夫々種類により數量が違ひます。此製造高は、實に六十一億八千六百餘萬本の多きになりました。兩切紙卷煙草も同樣十三種ありますが、此れは其數十二億七千六百餘萬本であります。此外土耳古葉、比律賓葉を使ひて、葉卷煙草を五種製造してをります。又内外人の嗜好に應ずる爲には、外國製造の紙卷煙草と、葉卷煙草及刻煙草をも凡そ百餘種輸入して、汎く其需要に應じてをります。

昨年度中、内國に於て、官製品を元賣捌人に販賣しまして、夫より小賣人に賣渡したる金高は實に莫大なるもので、六千六百四萬餘圓の多きに達し、此金額は所謂煙になつて仕舞ふのですけれども、此煙は世に議論あるにも拘らず、社交上一時も座右になかるべからざるもので、其上無上の榮養分を含みてをりまして國庫の健康を增し、其財源の肥大を促進してをります。

煙草の需要は年々増進して、其嗜好も次第に向上し、一般に上等品を選ぶやうになりました。是は衣食住に伴ふ一般の現象にして、多少奢侈の風の增長した譯でもあるが、他の一面に於て、亦得るところもあることゝ思ひますから、先以て慶ぶべき狀況と考へます。(完)

鬼火

堀内新泉



二

云ふまでも無く、當主の孝太郎さまは癩病に罹つたのだ。

まだ若い主人夫婦の驚きと悲みは殆んど發狂するばかり。親類中でも大いに驚き、彼の家には昔から決してそんな血統は無かつたのだが、まあ如何したのだらう?」と云つて皆眞蒼に成つて訝つた。

成程、山の井家の方には、そんな血統は無かつたのであるが、先代の愛して居た素性の知れぬ妾のお露——當主の生母の身體からこの可怖しい血統の絲を生々しく引いて居るのであつた。

さて愈よ自分の身體が斯う成つて見ると、それと同時に山の井さまの若旦那さまは、悚然とする程嫉妬深い人に變り、片時も自分の傍から連合のお里さまを離さなかつた。

お里さまは、良人の容貌の眞向には見られぬ程變り果てたのに興を覺し、何うか辛抱しやうと思つて見ても辛抱の出來ぬ所に、良人は酷く我が一言一行に邪猜を逞し、一寸一歩門に出るにも蛇のやうに附纏ひ、殊に夜中などは胴の邊を細引で縛り、其の一方の端を自分の腹に縛つて寢るやうにするので、夫婦の愛も色も褪め、一日僅の隙を窺ひ、何處を何うして飛んで行つたとも覺えずに、呼吸急き生家に逃歸り、門に一歩入ると共に撲地倒れて正氣を失つた。

幾度迎ひの者を遣つても、それ切戻つて見えぬので、此方では色々に手を盡して、一日寸時も早く呼返す工夫をしても、先方は兎角云ひ遁へて、一日延しにして居つたが、一日媒介人を以て、到頭離緣の請求をして來た。

「おのれ薄情女め!」と、言ひも終らず孝太郎さまは怒に堪へ兼ね、奮然として座を蹴起つたが、見る間に燃え立つ嫉妬と怨怒の火燄に立つたる不動の威を爲し、祖先傳來の一刀を提げて疾風の如く家を驅出す。「素破一大事!」とスグその後から追ッかけた人々に、或る坂路で追ひつかれ、大勢に手取り足取りされて連歸られ、おもひは屆かず、無念は一トしほ!

一方には、取つて二歳の幼兒が、頓に乳に離れたので、莖より捩れた苺子のやうに、日毎夜毎に萎み行く。

山の井さまに二代勤めたお作と云ふ忠義な老婆あり。乳を搜して泣く兒を抱き、氣兼しい/\村の乳ある家を訪ねて、何うか御迷惑さまながら一口!」とお頼んで見ても、アヽ、世の人は情薄し、今と昔は比較の出來ぬ山の井さま、殊に忌はしい病氣の生々と出て居る人の兒とあつては、誰れも皆一樣に迷惑さうな顏をする。

「アヽ、これが昔の山の井さまならば、假令旦那さまに何んな御病氣が出やうとも、一方に光る物を見せたならば、皆が皆申し合せたやうに、このお兒にお乳をおあげ申すのはいやとも云ひまいが、弱り目に祟り目とはこの事か、旦那さまは彼の通りのお身體に成り、この節の御内證は頓と御必迫!好し/\これぢや最う毎日肩身を狹くして、貰ひ乳しやうよりか、外に何か工夫をしてお乳に代へる物を作り、お育て申して見ましやう」と老婆お作は決心し、色々丹精して見たが、死ぬる生命か、但しは食物の善くない所爲か、兒は段々水膨にふくれて來て、所詮助かりさうにも無い。

不幸なる父親は、その後どッかり床に就いて枕上らず、たゞ一心に我が身並びに我が兒を棄てた人の事を旦夕太く怨んで居つたが、その中に誰云ふともなく、「以前この村の山の井さまに見えて居られた彼のお美しいお方は、今度この下の村の何某方へ良緣あつて、この月の何時幾日にお嫁入成さるさうな」と云ふ噂。

「奥さまも餘りではありませぬか」と云ふを切ッかけに、或る日お作老婆がこの事を病人の耳に入れると、それで無くても病人は片時忘れぬ怨みの一念「おのれ何處までも可惡女め!この怨み晴らさずに置くものか」と、口には出さぬが一心に思ひ詰め、日の暮れるのを待つて居ると、頃しも丁度秋の暮、何時の間にか天氣が變つて、秋雨が蕭々と降つて來た。

日の暮れるのを待つて病人は、老婆を他所に使ひに出し、心は急ぐ死出三途、最う死にかゝつた兒を抱きあげて、これを別れと燈火の下に連れて行き、凝然と眺めて涙を流し、

「これ坊や、わしを怨んでくれるなよ。お前も所詮助からぬ生命、わしも生存へて甲斐無き身の上!因果と因果の寄合か父子と成つて生れて來たのか、無慈悲な親と怨むなよ。何處までもお前の身に添ひ、決して側を離れはせぬぞ!」

泣く/\背に十文字、搦上げ緊乎括りつけ、

「さあ、老婆の戻らぬ間に……」

杖に縋つて蹌踉々々表に出る。戸外は一面何處が何處やら分らぬ闇!烈しい雨と風の中を辿り辿つて此處を死場と志す或る山川の、名さへ「底無しの淵」と云ふ、見ても身の毛の彌立つやうな淵の頭に遣つて來た。この世彼の世の境は今!病人は嶮しい岩の上に兒を確りと負うて立ち、凝然と下を何ひて居つたが、忽ちザンブと淵に物音、翌朝死體の見當るまでは、此處とは無論誰も知る人は無かつた。(つゞく)

友をしのびて

京都　松岡りよ子

思ひ出づる、三年むかしは夢なれや、とひつ訪はれつ手をとりて、繁く通ひし[illegible]しだき、心のまゝに遊びては、青を[illegible]たる大空に、一筋かゝる天の川、夕[illegible]を歌ひしが、照る月影のさやけさ[illegible]そゞろにあくがれて、いざとて共に[illegible]や、千草花咲く秋の野に、蟲のなく[illegible]尋ね行き、しみゆく野遊の夜の色を、[illegible]寒風にかこちつゝ、やがてはきゆる[illegible]らて、とこはの春の美しき、花の友[illegible]ひかはし、姉妹よともむつびにし、[illegible]支那のさすらひ女、秋風すさぶ野に[illegible]て、故郷をしや偲びます、あはれ[illegible]つかしき、君よとこふる我袖の、[illegible]めりてたゞならぬ、思ひは[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

故中山一位局の御事歴

かねて御重體と承り及びたる中山一位局は藥石効なく本月五日午前四時五十分青山の御邸に於て、薨去あらせられたり。局の御事歴に就ては、記すべきこと多多あれども今其概要を拜記せん。

一、天保六年十一月廿八日生
一、嘉永四年四月十一日補典侍
一、安政六年七月廿二日依願所勞辭典侍
一、慶應三年三月十三日敘從五位上
一、同年四月八日補典侍
一、同四年八月八日敘從三位
一、明治元年三月大阪行幸供奉
一、同年九月東京行幸供奉
一、同十二年八月卅一日御降誕(明宮)御用掛被仰付
一、同十二月明宮御養育御用被仰付
一、同廿二年三月明宮御養育御用被免
一、同日敘正二位
一、同三十三年一月敘從一位
一、同月敘勳一等授寶冠章
一、同四十年十月五日御薨去

▲御生誕及御一門

中山一位局は、故大勳位中山忠能侯の御息女にて、御名は慶子と稱し、天保六年十一月廿八日京都に生れ給ふ。母君愛子の方(行年九十歲)は九州平戶の舊藩主松浦伯爵家よりとつかれしとぞ。御兄弟には松麿、春麿、榮姬、康姬など在らせられぬ。榮姬は東宮殿下附に康姬は青山南町なる本多子爵(正憲氏)夫人たりしも、先年歿しぬ。正親町伯爵(實正氏)夫人兎美子(四十九)又中山家の出にて、局の御姪なり。侯爵中山孝麿氏(五十六)は兄君忠愛の次男にして、祖父忠能の後を嗣ぎ給ひしものなれば、慶子の方は實に其叔母君に當らせらるゝなり。又現侯爵夫人勝子の方は、室町公績氏第十一女にて在られしも、先年病歿し給ひ、今回終始局の病床に侍り給ひし三千代夫人(卅八)と云ふは、其後添にあらせらるゝといふ。

▲宮中へ御入內

先帝孝明天皇には皇后に皇子なく、御妃に今城重子(現今城子爵の大伯母君)と定められしも、此れまた皇子の御降誕なければ、畏くも宸襟を惱ませられ、竹の園生の御寂しさを嘆たせたまひ、中山忠能卿の御息女慶子の方(時に御年十七歲)を中宮に納れよとの御意ありて、慶子の方は嘉永四年四月入內して典侍に任ぜられ、翌五年九月二十二日未半刻中山家に於て皇子祐宮睦仁親王御降誕遊されたり。當時勤王佐幕の擾亂國內に絕えず、人心頗る安からざる折とて、宮中の一部にも種々の流說行はれ、殊に中山家の如きは、萬目嫉視の間に立たれけり。斯て萬延元年九月東宮冊立の御事あり。此間慶子の局は皇子御養育の事に寢食をさへ忘れ給ひ、賢名の聞え宮中に滿ちけるが、幾くもなく先帝崩御あり、東宮御歲十六にて、天が下知し召す大御位に即かせたまひき。

▲御性質

御性質はいと嚴格なる方にて、一度思召されしとは、何事に依らず行はざれば止まじとの御氣風にて、其上御慈愛の御心も厚く、おはしまし、侍女侍臣に對する御心づけの些々なる事にも行屆き給へるなど、上つ方の御育ちとは覺えぬ程にて、侍臣等の常に感泣せる處なりき。

▲御嗜好

御嗜好の物は京人形が第一にて、其他香箸、置物、陶器などを玩ばるゝが常なり。時々御慰みに手づくね陶器など親しく製せらるゝ事あり。平素の御食物にての好物は、薩摩薯の丸燒、京の丸茄子麥飯、(米飯の眞中に丸麥を袋入にして炊ぎしもの)及びお湯の子(御飯の焦飯と異なり只釜底に附着せる御飯に湯を注ぎたるもの)などなり。又殊の外愛させ給ひしは二疋の狆にて、平素御愛養深く、暑中の夜は狆の爲めに蚊帳を吊り、寒さ身に泌む冬の夜は、暖爐を以て溫めやり、毎日獸醫をして診察せしめ給ふなど御手あつく愛育せさせられしが、一昨年二疋とも病の爲に死したれば、局は不便に思召され、淺草北淸島町なる源空寺へ厚く葬らせられしとぞ。而して御嫌の者は看護婦の白服にて其御心は『どうやら病人らしい』との御考へなる由なり、故に御危篤に際しても、侍する看護婦は各々服裝を更へて奉侍せりとのこと。

▲御信仰、御愛情

局は敬神の念いとあつくおはして先帝孝明天皇の御祭日の如きは、朝疾く起床遊ばされ、近年は御老體にも拘らず、冷水を以て身體を潔められ、禮拜を遂げ給ひし後は、終日御精進遊ばさるゝなど、到底普通人の及ぶべき所にあらず。斯くて太神宮には、毎月一回必ず御代拜を遣はされ、折に觸れては、御自身徒歩にて太神宮に至り、神の御前に額づき、上兩陛下を始め奉り、東宮兩殿下、皇孫殿下の御安泰を御祈念遊ばさるゝ御熱心は申すも却々に畏し。尙ほ過ぎにし日淸戰役の時、大本營を廣島に移され、陛下親しく御西下遊ばされ、軍國の萬機を御覽はせらるゝや、一位の局は、聖上の御勞苦を察し給ひ、早朝より起き出でさせ露の散敷く芝生の上に折敷きて、皇國の戰勝と陛下の御健康とを專念に祈禱遊ばされしか、偶々陛下御微恙ありとの報あるや、局は一日數回電報を以て、御容體を問合せられ、只管御快癒の一日も早からんことを祈り給ひし御眞心には、お附の人々感動せざるはなかりきとぞ。更らに三十七八年の日露戰役には、大抵御自身にて太神宮へ參拜せさせられ、勝利を祈りたまひ、平和克復の一日も早やかれ國民に怪我なかれかしと、一兵卒に至る迄、親を棄て妻子を棄てゝ、故國を去るを氣の毒に思召し、屢勝利の報傳ふる每に、此上なき喜色を面に泛べ、同時に御禮の參拜をつとめ居られしとぞ。其他の神佛にも御歸依深く、取り分け柳島の妙見と駒込の白山とが第一の御信仰にて、時々僧尼達の寄附願を受させたまふ事あり。先年百七歲と稱する仙臺の老翁あり、局の面前に召出され、百七の龜を書きて獻上せしに、局は大に喜ばせられ、報謝として先帝遺物の御盃を下されしが、後に至り此老翁全く百歲に滿たざる大騙漢と知れ、お附の人々打驚きて、跡を追ひ、御盃を取戾したる事もありて、此等無邪氣なる御擧動往々にして尠なからざりき。爰に最も尊き御事は局が皇太子殿下並に妃殿下に對し奉りての御慈愛は、殊に〳〵いや深く、折々信仰の御物語など聞かせ進らするにぞ、妃殿下も御老人の心を汲ませられ、柳島の妙見へ金千疋の御供物の御沙汰もありしと漏れ承はる。

●酒井伯爵夫人の逝去

舊播州姬路の城主酒井家の御當主伯爵酒井忠興氏の令夫人夏子の御方は、此程宿痾革りて本月十八日終に身罷り給ひぬ、御歲實に二十三歲なりき。夫人は、故三條公の第七女におはし、我が愛國婦人會總裁閑院宮妃殿下の御妹君に當らせらる。登時御臨終の御模樣を承はるに、病勢御危篤とのことにて舊師跡見花蹊女史御枕邊近く伺はれし際、夫人は、御良人伯爵の君に、最明晰なる御言葉もて、御子供達の上を案じ頼まれ、伯爵の君より、心配し給ふなとの御答を聞き、御胸の上に手指を組ませられ眠るが如く絕入給ひしとぞ。御意志堅固にして將來有爲の御女性なりしに、未だ青春の時期をだにをはらせたまはで、むなしくなりたまひしは、悼むべききはみにこそ。本紙第五面に揭げたる書と畫とは嘗て夫人のものされしものにて、今請ひ得て揭ぐることとはしぬ。

◎根本的美顏術

文明の力は遂ひに人の顏や手足の造作にまで干涉して來た醜婦も化學の力で美人となり得る樣になつて來た歐米では人美容に關する學校さへ設立せられ如何にせば容姿を美くしくすべきかに就て苦心研究して居る專門學者さへある美人國に生れながら家庭に於ける舊慣から恐ろしい鉛毒の混入した白粉や粗製の香油や質の惡い紅を以て僅かに裝容の具となし來つた日本の婦人も近來は多少自覺したと見えて遂に斯術の敎師や著書が現はるゝ樣になつた今は又た米國からポンピアンス、マッサヂー、クリームなる一の新化粧品が輸入された

ポンピアンス、マッサヂー、クリームは今を去る十餘年前米國に發明せられ美容劑中の最優等品として聲名高く同國美顏術學校の敎授藥學博士ダブリュー、ステツセル氏が『美容に關する藥品器械も澤山あるが諸藥品の各特色を綜合的に有つて居る同クリームほど完全善良のものは無い』と激賞したもので第一の効力は色を根本的に白くする事である白粉のやうに上面ばかりを白くするのでなく心から白くするのである一日一回なり三日に一回なり先づ良い石鹼で顏を洗ひ乾き切らない中にクリームを充分に塗り思切り兩手で乾燥するまで摩擦し皮膚の中の不純物が垢の樣になつて出る程摩擦した後羊皮か絹半巾の樣な軟かなもので鄭寧に拭き取るのである然すれば白粉の樣に直ぐ塗つて直ぐ白くはならぬが十日乃至二十日間後には其の効顯著るしく豐頰白色の美人となるポンピアンス、マッサヂー、クリームは確に我國の美容渇望者に非常の滿足を與ふるものと思ふ巳にサンマース夫人一家、高敎授クラーク博士夫人、村井弦齋夫人、新橋藝者五六名は同品の有効を嘆賞して居る直段は大參圓小壹圓五十錢日本代理店は東京銀座のローヤル水本舖佐々木商店てす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

總菜料理の研究に力むべし

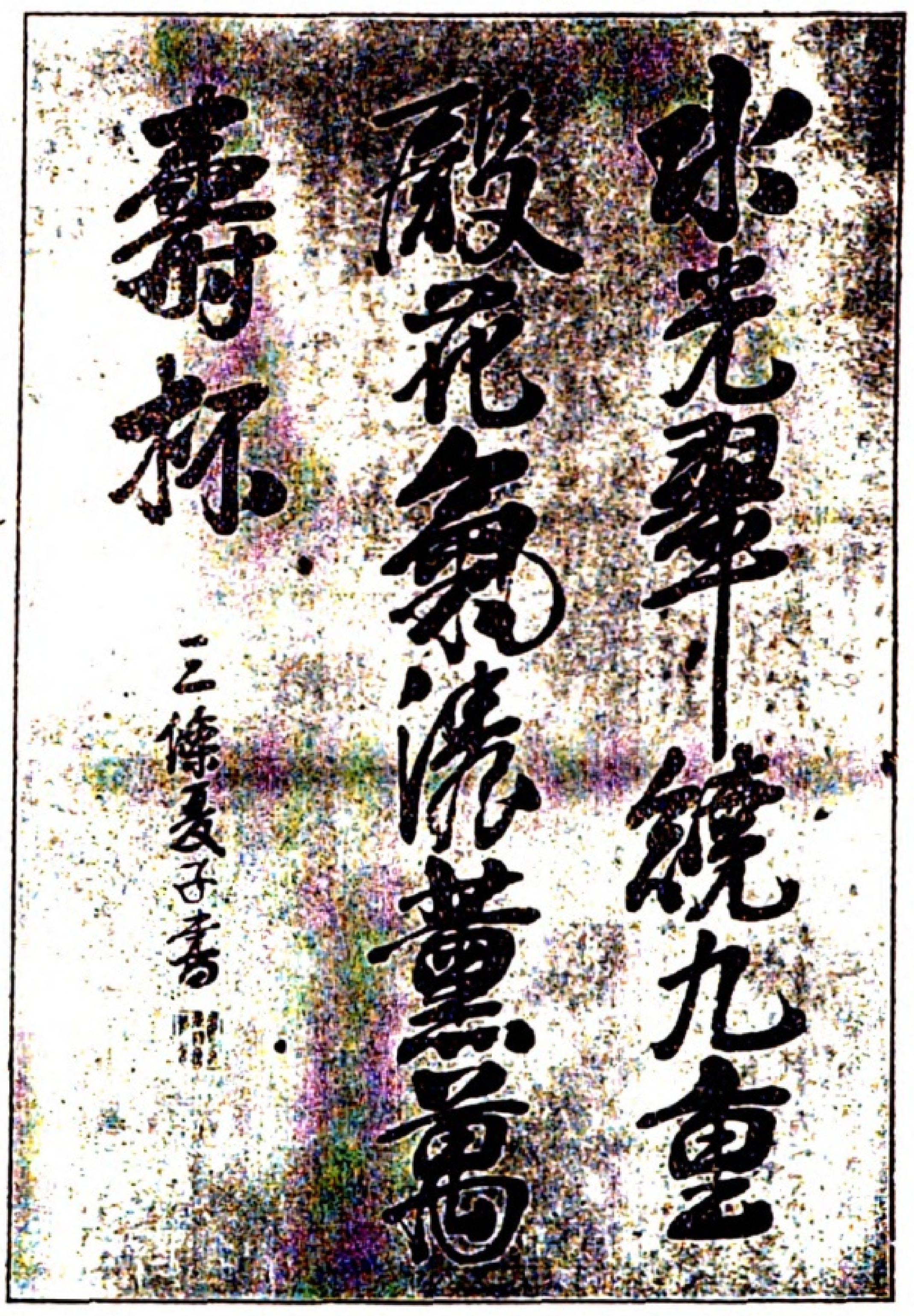
山澤俊夫

近年の物價騰貴は實に激烈なる昂り方て、是迄に例の無いとてあります。就中食品の騰貴は殊に甚しく、去る明治三十四年の七月に壹圓した物が、今年の九月末には壹圓六拾七錢三厘といふ割合になッたのてあります。(東洋經濟雜誌社の調査に據る)されば、從前一個月參拾圓て生活された家ては五拾圓もかゝり、百圓の生活は百五六十圓も要るといふ樣に、生計の上に非常な狂を生じて來たのてあります。されども其れに連れて收入が增せば差支はないが、どうもさう都合よくは行かぬのてある。

其處て此物價騰貴の難關を通り行かうとするには、如何なる方法に出づべきてあらうか、私は此事に就いて婦人方に相談して見たいのてあります。

誰ても一通りの考は、物價が高くて入費が多くなッたならば、一層儉約するより外に仕方はないと云ふとに致するてありませう、が併しながら、戰時以來心がけのよい人々は、出來得る限り切りつめて生活して居るので、此上儉約する餘地はないのである、殊に食物に至ッては餘りに粗末な物を用ゐては、身體の元氣が衰へて、却ッて務に障ッて、收入を減ずる虞があるから、身體の健康を保つに必要なるだけの物は、どうしても入用てある。

されば、如何にしたならば宜しからうかと云ふに、私の思ふには、婦人方が總菜料理の研究を爲されるとが今日に於て一大急務てある、即ち價安くして滋養ある食物を上手に料理して味を美くするを研究するとが極めて急務であると考へる食品といふものは、直段の高い物が必ずしも滋養が多くて甘いといふ譯てはない、直段の安い物ても隨分滋養も多く、味も美い物が少なくない、例へば豆腐の如き、麩の如き、味噌の如き、孰も比較的其直段が安くて、滋養が多く、且つ料理の仕樣に由りては、味の美い食品てある又鰯鮫鯖の如きは、下魚と稱へて、比較的直段の安い物てあるが、內務省衛生局の分析に據て見ると、却て上等の魚として貴ぶ所の鯛鮎鰻よりも、滋養分が優ッて居るのみならず、牛肉雞肉よりも上位てある、故に決して直段の高い物が滋養が多いとは限らぬ、安くても良い物が幾許もある。元來物の賣買直段と物の眞價とは違ふのである、眞價の貴い物でも潤澤にあッて雜作なく得られる物は賣買直段は安いのてある、鰯の如きも佛國製の油漬は其價が大層高いのを見ても知るべきてある。故に直段の安くして眞價の貴い物を利用するのが、經濟の極意てあッて、儉約の最上策とも謂ふべきてある。



幸に我國にては、食物を質素簡易に濟すといふ良風が行はれて居るのは、實に一家の經濟の爲のみならず、國力發展の上に極めて大切な事てある。世間には、西洋の如く肉食本位を理想とせよといふ說を唱ふる者もあるけれども、斯る言には決して耳を傾けてはならぬ。西洋人は既に生活が高まッて大に困ッて居るのである。年頃になッても、結婚するとが出來ず、生涯獨身て暮す者の多いのを見ても、如何に一家の生計が容易でないかを察せられる、生活が贅澤な習慣となッた爲に、勞働者ても安い賃銀ては暮しがつかぬ、少くも一弗半か二弗か、即ち我國の三四圓位の賃銀てある。我國ては造船所の職工が平均五十八錢位てあるから、水雷驅逐艦を造るにも、英國へ注文したのは平均七十一萬餘圓かゝつたが、內地ては其半額卅六七萬圓て濟むとは、櫻井造船拔監の話てある。況して養蠶製絲機織なぞの女工の賃銀は一層安い、隨ッて生絲羽二重の如き、其生產費が低廉てある爲に、盛に輸出が出來るのてある。若も西洋の如く女工等が一日に三圓も四圓も工賃を取ッたならば、品物が高くついて、到底も輸出して引合ふ譯には行かぬのてある、されば我國の外國貿易が長足の大進步を爲し、國力發展の旺盛なる原因は、勞働者の賃銀が安いからてある、此賃銀の安いのは、質素簡易なる食物て滿足するといふ良風習に外ならぬのてある、若しも西洋に眞似て、贅澤な食物を用ゐる習慣となッたならば、我國の經濟上の發展は忽ちに停止し、個人の生計困難は、名狀すべからざる悲慘に陷るてあらう。

食物は身體の筋肉となる養分と體溫を保ち活動を司る養分とが入用てあるが、是は穀物野菜の中に備へてある、肉食てなくては健康が保たれぬといふ譯はないのてある、若し肉を副食とするにしても、價安き魚類て十分てある。わざ〱高き鳥獸肉を用ゐるには及ばぬのてある。要は唯餘りに質素簡易に過ぎて營養不足の弊に陷らぬ樣注意すべきてある、此弊に陷らずして、而も價安き食料を味美く料理するとは、家庭を主宰する人々の、必ず研究を力むべき事にして、殊に物價激騰の今日に當りて、極て緊要なりと思ふ。

今後本誌上に其標準となるべき總菜料理をかゝげて、讀者諸君と共に研究したいと思ふ。讀者諸君にして、幸に私の考ふる所に感を同じうせらるゝ方々は、先以て各自が此條件、即ち材料安くして營養もあり味も美しと思はるゝ總菜料理の拵方を書きつけて寄稿せられたし、之を本誌上に揭げて互に批評せば、其得る所尠少てないと思ひます。

* * * * *

櫻井女塾長　櫻井ちか子

SALAD DRESSING.

One egg, one teaspoonful of salt, half a teaspoonful of pepper, one teaspoonful of mustard, two teaspoonful of sugar. Put all in a bowl and mix thoroughly, then add lump of butter the size of a walnut and four large table-spoonfuls of vinegar. Set in pan of boiling water and stir until thick as custard.

サラド、ドレッシング

皆樣も御存じの通りサラド、ドレッシングと申すはサラドに掛ける汁てあります、其分量は鷄卵一個黃し白しよくかき交ぜし中へ鹽茶匙一杯、胡椒茶匙半杯、芥茶匙一杯、砂糖茶匙二杯、以上の五品を入れてよく混合しました中へ小量のバターと酢を食卓用の大きな匙に四杯入れます其れを直接火にかけず鍋に湯の沸騰して居る中へ器共入れ湯煎にいたし汁がドロドロになる迄かき交せながら煮てうすき葛湯の樣になりしを度合として別の鉢に用意してあるサラドの上へ熱きうちにかけるのです但し熱き內にかけますはサラドの玉葱或は玉菜なとか其熱さの爲めに柔かになるからてあります。

サラドの材料には色々類がありますが先づ最も簡單なるポテトーサラドを申しましよう。

中位の馬鈴薯三四個をゆて冷えたる後厚さ一分大さ四分四角位に細かく切り小さき玉葱に一個を極細かに刻み馬鈴薯の上にのせ其上へ前記のサラド、ドレッシングをかけよへかき交ぜ全へ冷ゆるを待ちて食するのてあります、林檎一個細かに切りて其中へ混ぜれば一層よく又玉菜のサラドに同じドレッシングをかけると風味好きものてありまよ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

野外散歩

一等　廣島　天野みほ子

さを鹿のつまこふる聲の身にぞしむなる秋の夜の寐覺に、同衾せる妹と共に語らひけり。今日はとく起きて野外に散歩せばやと。やがて母君に許をこひけるに、其はいみじうも思立ちけるよ、最早部山に茸の生出てつらんを、行き見よと仰せらる、嬉しともうれし。朝まだきに家を出て、野道を行けば、美しき千草の露の朝風に拂はる、さまいと風情あり。山路たどりつゝ打ちわたせば、町の甍は朝霧に立ちこめられて、和田海の底に鷄の聲の聞こゆるいとをかし。尚登り行く程に、山氣いよ／＼清く、老松壯檜は樂を奏て、八千草の花は錦を敷けり、妹と共に裳を露にぬらしつゝ、秋の香をあさり歩き、小さきながらも、籠にみつるまで採り得たるいと嬉し。扨も此山や毛利氏蝸起の城趾にて、尼子氏に勝ち、陶氏を誅し、遂に十數國を從へ給へる元就公の墳墓は、世嗣隆元公と立並びて、山麓に嚴然たり。之に賽して座に當年を追懷すれば、老松の梢をつたふ風も、當時の喊聲に和せしものかと想はれて、いと床しう聞えける。家に歸りて籠なる茸を、誇顏に母君に見せまゐらすれば、是も／＼毒の茸なりとて、過半は取捨てられたるぞ、いと耻しきや。

青森　吉田安子孃

評　文に活氣あり語句にはまとまらぬ節はあれど

二等　鹿兒島　藤井錠子

小春日のうらゝけき今日の日曜を幸に、親しき芳子の君と野外散歩にとうかれ出た。歩みながら語る話に實が入つて、覺えず遠くのりだした、果もなき秋の野に、今を盛りに咲き匂ふ八千草の花を愛して、あちこちと歩く程に、遙向うに、一點の白いものがある、何ならんと往き見れば、なつかしや一本の野菊。わらはは思はず手折りて頰に接けた、暫くしてフト思ひ出したのは小説乳姉妹。ネエ芳子さん、『房江孃と昭信侯爵との深い契りは、此花で結ばつたのネエ。』と互に此花のなつかしき姿と、かんばしき香とに恍惚として、千々に思ひを浮べつゝ、歸途につけば、秋の日の短く、いつしか吾等二人の影を長く／＼地上に印して居る。

評　日の短く影の長き其對照おもしろし

三等　山口　河野梅子

尾花をなづる上風の、肌涼しき秋の日に促されて、何處と當どもなく立ち出づれば、昨日まで、田植よ草植よと、夜の夢も安からず、心づくしてし稻田は、いつしか實のり豐に穗を垂れて、早くもかなたこなたに、農夫のひな歌うたひつゝ刈取れるぞうれしきや、東に聳ゆる德佐か峯の西に流るゝ朝早川の水の清さ、青空を鳴き過ぐる雁音、木々を色どる薄もみぢ、栗はゑみ柿は赤らみぬ、見渡すかぎりの物、皆歡びて、我を迎ふるが如し。あゝ我里の秋の日の散歩こそ、氣爽に心樂しき極みなれ。

評　醜陋として都市に棲める者も此文を讀みて心ののびやかなるを覺ゆ

山形　阿部さゐ子

昨日まで黄金の浪たゞよはせて居た稻は、皆刈取られ、あつちこつちの杭に二かけ三かけ殘つてある、救世軍總督ブース大將來朝の折、參らしと褒められた藁の外套を着た案山子は、稻株ばかりの田の中に、破れた饅笠を被ぶり、弦も弛んだ弓をたゆげに持て、己が任務は果しをへぬとつうに立つて居る。鳴子の綱は大かた切れて、唯二本ばかり、吹き來る秋風に、ゆら／＼とゆらぐたびに、三つ二つとまれる蜻蛉はとまりなほすのである。秋には珍らしき暖かい日影をふんで家に歸り見るに、皆稻粁一枚になッて稻をこしらつて居た。

和歌　菊

佐々木信綱大人選

天　武田須磨子

宮仕へ此秋いとま賜はりて老女か宿に見ますしら菊

評　下句のいひざまやゝいまだしと思ふふしあれど、着想の新らしきを以て天に撰びいてつ、

地　彥坂清子

こゝかしこみだれて咲くもあはれなり水にあれたる庭の白菊

評　婦人の歌としておだやかなる作。水害にあひし地方のあはれなる秋のながめも思ひやられて。

人　吉光寺とし子

まどによりてそゞろこゝち秋の朝ゑぞ菊めせと小原女の聲

評　京都の秋、めのまへにうかびいづる心地せられて。

秀逸

我が宿のまがきのきくを友として野山の秋はとはてすごしつ　大分　北村延

旅にいます夫に送らん培かひし庭の白菊おし花にして　群馬　井田しま子

野と庭とへだてかれたるやれかきにおしなべて咲くしらきくの花　大坂　金田ひさ子

幼な子がまゝごとなせる片はらにしづけく匂ふ白菊の花　青森　大橋かれ子

紅葉はのちりかふ秋のかなしさもしらでほゝゑむませの白菊　長崎　葛原梅香

ほのじろう菊咲く中の石ぶみのかへり見らるゝ夕月の道　鳥取　佐伯くに子

菊の花いろさま／＼に咲きいでゝ里の霜があがほうるはし　青森　田島正子

老人のみてなばひきてにはめぐりきくのさかりのみちよきかな　群馬　伏島たき子

くちおもに花よく／＼と稚子かまちし白菊咲きいでにけり　青森　田島愛子

あはれ誰が手むけましゝか千代の香の孝女が墓のしらぎくのはな　東京　小林芳子

おり立て見るも手折るも我そのにたのしみ久し白菊の花　靜岡　萩原さだ子

もろ／＼の國の花々多くあれどしくものぞなき白ぎくの花　東京　杉山春榮

女花めせとうる乙女子のあはれさを語りかほなる一籠の菊　愛知　湯淺とよ子

ひと本をこひてゆかまし菊の花やみます母の心なぐさに　石川　廣野すて

園にして見るよりもなほ床しきはさとのかきれの白菊のはな　大坂　大谷たか子

たちちれのみとりにこもる友にとて一本たをる庭の白菊　石川　源基子

あな嬉し友のたまひし菊の花を瓶にさゝんかさしにやせん　青森　大橋のぶ子

なき父のみたまに先そたむけまししけささきそめし白菊の花　山形　阿部さゐ子

今日さきしはつ花折りて手むけなん菊をこのみし友のみはかに　長崎　小林うめ子

一人のみ千代をしめてもにほふかな露の身をおくよもぎふの宿　京都　古川よね子

甲

庭もせに餘れも千代の菊の香を隣にまでもおくるけふかな

うみの中海の外まで波高く蕪る菊こそ撃かりけれ　愛知　下江すゑの

白菊の花をかざしつゝうなゐらか君が代うたふまなびの庭　鹿兒島　藤野錠

秋風に姿もまけし色もあせず大輪に咲ける連城の王　青森　留目和歌子

おもしろきいはにねざして白菊の千代のかほりのけだかかりけり　神奈川　鈴木まつ子

たぐひなく匂いてけりあさよひにおほしたてつゝ庭のしら菊　東京　五十嵐清子

おくしもに月の光りもかげそへてさやかに匂ふ白菊のはな　靜岡　安永みち子

みるさへもうれしかりしを白菊の千世のしづくにぬるる今朝哉　宮城　山下清子

まくさかる子等もさすがにのこしけり千草ににほふ菊のひと本　福岡　松村賀子

おく霜に千代の籠れる白菊は幾秋ながく咲き匂ふらん　福島　谷川千賀子

つくろはぬ嬢が伏せやの垣根にもめぐみの露に匂ふ白菊　青森　佐藤國子

白菊の匂はざりさは嬢がやのいふせきをたれかとはまじ　東京　小宮とめ子

ならしのに戰さとするいしびやの數を小菊の花に見るかな　三重　西山ひさゑ

菊の花手折り御影に捧げ居れば窓に瀰來る君が代の歌　三重　西山數子

なき兄に菊をたむけて千々かみをしのぶたもとにつゆぞこぼるゝ　岡山　西村きよ子

やう／＼におほしたてにし菊の枝を惜しくも虫の折りてけるかな　三重　小島駒子

菊咲きて祖母の賀祝ふ園の中千年ものふる心地こそす　石川　小坂夏

これの宿のあるじの君も僞はれて立ちとまり見る白菊の花　石川　小坂ふじ

つくたじにほたせしとの今更にこゝろはづかし井戸の白菊　東京　中限富士子

なき父がめでてたまへにし花なれば折りて手向けん菊の一本　青森　大橋八佐子

うき秋をへだて住む身の友なれや庭に匂ふしら菊の花　靜岡　蒲池しづよ

うつしうゑて外國人も見つるなり讃居の庭の菊のかをり　山口　末田竹子

咲き匂ふ菊のさかりに孫をひかれて來つる人もありけり　山口　末田貞節子

水清きいさゝ小川に影見せてさかり久しき千代の白菊　愛知　山内種子

いやましに秋の哀れを添へにけり主なき庭に白菊の咲く　京都　古川よね子

（歌員過多のため乙以下略之）

俳句　秋季雜題

内藤鳴雪大人選

天　名月の今宵やほしき子一人　京都　古川よね子

地　蜘蛛にげてことのそら音や秋の雨　東京　加藤ふみ

人　僧正の簑着てかへる時雨かな　東京　中山正子

小春日や河原に草のかへり咲き　東京　中限富士子

鷄の鳴く田家の秋や柿柘榴　宮城　篠木冬子

末枯の草の中なりからすうり　三重　南部文子

みのりたる若田めぐるや朝心　京都　うたな

嗽ぐ我が齒にしみぬ秋の風　三重　南部ふみ子

蜻蛉の影さす窓の夕日哉　三重　南部染子

夕風や藪蚊の聲のよわりゆく　三重　南部種子

舟底を洗ふ日和や蘆の花　東京　鶴岡とく子

蕃蓼畑の松の松に鄰りして　京都　山本千代子

秋空や都に遠き旅心　東京　中山由子

草刈りの刈殘したる野菊哉　山形　阿部さゐ子

虫のねも過しむかしをなく夜哉　山口　末田竹子

子等も來て拾ふ山田の落穗かな　愛知　下江すゑの

暮てゆく秋のかたみや枯尾花　愛知　下江きみ

淋しさの日に日にまして秋の庭　神奈川　鈴木まつ子

功なりて頭に霜のかゝしかな　岡山　清水梅子

すれろ見をしかる軒場や稻光り　三重　莊司種子

月ふけて水に砧の遠音かな　東京　小林きよ子

日三尺聲寢なしむや秋の人　青森　吉田安子

秋ゝ宮おの白鷺の高う飛ふ　山口　弘中いろ香

月更て唄の止みたるうすの音　岡山　西村てふ子

菊活けて陶淵明に似るべうも　三重　西山きよし

秋の夜や枕もたぐる遠きぬた　青森　田島正子

山のはる日もくれなゐに蔦紅葉　京都　田鶴子

河ぞひの細道三里紅葉かな　鳥取　佐伯國子

◉短文新體詩和歌俳句募集

回數	種類	題	選者
四三	新體詩	隨意	編輯局同人
五七	短文	同	同
三六	和歌	冬の山	佐々木信綱
六六	俳句	冬季雜題	内藤鳴雪

一　締切十一月五日　發表十一月廿日

二　其他の事項は前號掲載の通り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

●東宮殿下御渡韓　空前の御快事と稱へ奉るべき皇太子殿下の御渡韓は豫定の如く本月十日午前十時廿五分恙なく御發程あらせられたり當日御通輦の沿路は奉送者雲の如く群り何れも斯る盛事に際會し奉送するの榮を無言の内に謳歌し最敬禮を以て御奉送申上たり斯くて車駕停車場に着するや文武百官以下無數の奉送者秩序を正して送迎せり迪宮、淳宮兩皇孫殿下は妃殿下と共に御見送あらせられたり。

●最近海運の發達　世界列國の商業的競爭は今世紀に至りて益激烈を極め随て此數年間に於る列國船舶の噸數は急激なる増加を見たり是等の現象を呈せし所以に至りては各國民の生活に對する奮闘的精神が顯著なる向上を見しに由るべし今最近に於ける最も信憑すべき噸數の統計を上ぐれば左の如し。

英國	卅九年	一六、一六六、七四八噸
	四十年	一七、〇〇一、一三九噸
	差引増	八三四、三九一噸
獨國	卅九年	三、三七五、七四三噸
	四十年	三、七〇五、七〇〇噸
	差引増	三二九、九五七噸
米國	卅九年	二、八二七、七五六噸
	四十年	三、一六〇、八九五噸
	差引増	三三三、一三九噸
佛國	卅九年	一、二五三、七三四噸
	四十年	一、二八四、三六八噸
	差引増	三〇、六三一噸
露國	卅九年	一、一四五、五四五噸
	四十年	一、二六四、〇〇二噸
	差引増	一一八、四五七噸
日本	卅九年	九九六、五九三噸
	四十年	一、〇六八、七四七噸
	差引増	七二、一九四噸

◎老婆の眞心　古來我國は王化の洽き處は如何な邊陬に至るも報國の意氣あらぬはなくも分て世の人どちに知らしめたきとあり所は鳥も通はぬ八丈の島青ヶ島八十四番にすまへる佐々木きなとなん呼べる婦人の身の上にぞある女史が子息惣七氏は去にし日露の大戰に當りて身を軍國の海軍に捧げ誠心もて奉公せし天晴れ雄々しき身なりしも過る日本海大海戰に於て名譽ある戰死をせられしこそ悲けれ時の艦長東郷吉太郎氏は審實餘風と題せる書を作し之をみな女の許へ送りしに左の如く禮状を送り越せり。

拜啓向暑の候閣下御清康奉大賀候降て老婆始め家族一同無事消光罷在候間乍他事御安神被下度候扨佐々木惣七生存中は萬事御厚情に預り候ひしとは寸時も相忘れ不申候此度は擔屬餘風と申す珍本御惠送被成下有難拜納仕候親しく拜閲仕り候處帝國軍艦の精鋭なる斯くありてこそ暴露を摧ひ塞したるならん拙惣も亦餘りある大幸に御座候茲に於てか老妾等は愚息惣七の陣亡は君のため國のためにして實に名譽あることと觀念し毫も悲歎するものにては無御座候只管子孫を養成し未來の軍人たらんことを樂に致居候右御禮申上候時候折角御保養専一と奉祈候　草々敬具

明治四十年五月廿三日

東京府八丈島青ヶ島八十四番　佐々木きな

高雄艦長東郷吉太郎殿

島住の磯貝拾ふ賤が身も
おくれはとらじ御代の爲には
(原文のまゝ)

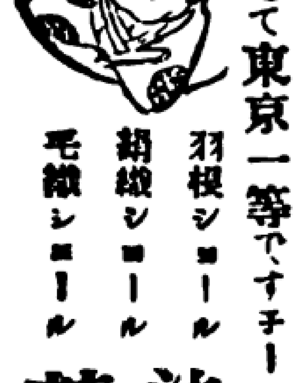
一讀せば篤氣なる無二の報國に厚き情操如たり身は既に愛子を軍國に捧げ賴る力草を失ひしかども尚ほ毅然として撓まず長く子孫を軍人たらしめんと心掛ることぞなか〱他の人の企て及ぶところにあらざるべし眞に世に類い稀なる烈婦にこそある。

◎英閨才媛の風流　芝公園に住へる英人デュア氏の令孃にて跡見玉枝女史の門下生たるケツテ孃は畫號を玉秋と云へるが此秘「稚菊小禽の圖」を揮毫し父令妹デエアッセ孃は同じく玉枝女史の門下生にて本夏信濃地方へ旅行せし時の寫生「小諸布引山」の風光を揮毫し何れも今回開設せる美術協會展覽會に出品せる由なり

◎東京盲人會の慈善演劇　古來我國には盲人を保護する方法が餘程旨く整い居りしに却つて近頃は漸く盲人が社會の進運に後れんとする傾向あるの結果當事者は是非とも獨立自營の途を開くべく主意の下に京橋區築地本願寺内の東京盲人教育會は從來種々の手段を盡し居たるが更に資金の増益を得んが爲め今回歌舞伎座十月興業の初日、二日の二日間を借りて第一回慈善演劇會を開きたり幕間には會長板垣伯爵の演説等あり愛國婦人會神田支部にては場内に其授産より得たる「足袋」の販賣をなせり狂言は初幕「箱崎文庫」二幕「葵の上」切狂言として「喜劇二人紳士」等にて久しぶりの豐明き且つ加上の理由がありたるのとて中々の景氣を呈せり

●世界異聞

▲軍用氣球成功　ツェップリング伯はウユルテンブルグ王、獨逸皇太子、レナボルド大公等參列の上操花飛行船を二時間操縦して其の有効なるを證明したり▲米國最大の新寺院　ロツクフェルラーの寄附金に依り米國クリーブランドに新築するバプチスト教派の一寺の院は同國に於て最大の寺院たるべきものにして高さは十六層を有し寺院内に禮拜堂、説教場の外許多の運動室、讀書室、男子室、婦人及び小兒室、食堂、寢室、病室等を設くる筈なりと云ふ▲英國共働組合博覽會　去月倫敦の水晶宮に於て同國の勞働者より成る共働組合の第廿回博覽會を開き非常なる盛況を呈したる由なり同組合は目下二百三十万人の會員と千五百個の商店とを有し毎年の生産額六億七千万圓年純益一億圓なりと云ふ▲獨逸の大艦隊　去月五日獨逸のウイルヘルムスハーフェンに於て擧行せられたる同國の艦隊式に加はりたる軍艦は二行に井列して長十五哩に亘り四個の艦隊と四個の水雷艇隊より成り艦隊は總て百十二隻、砲數千三百二十四門、總艦員一万九千五百八十九人なりしとにて此等軍艦の建造に要したる金額は三億圓なりと由▲米人が倫敦に費す金　今夏倫敦に於て漫遊の米國人が費消したる金額は少なくとも七千五百万弗を下らざるべしとの事にて或る倫敦の一大旅館の如きは本年三月以來米人の宿泊者六千六百人あり其平均一人の消費額二百五十弗に上りたる由なり▲絹の皺延器　米國に輸入せらるゝ反物は運搬の途中に於て皺を生じ商品たる能はざるもの多く其損害は莫大なる額に上りたるが此程紐育の一技師は此皺を延ばす簡單なる器械を發明し已に特許を得て製造に着手したる由にて假りに六十碼の絹にて皺の爲に四十八碼の損害あるものとせば此器械の發明に依りて毎年一億弗以上の利益ある割合なりと云ふ▲軍隊を欺きたる大詐欺　昨年獨逸のケーペニツクに於て一兇漢が陸軍士官の服を着けて大詐欺を爲したることは有名なる話なるが此程ハルビンに於て之に似たる大々的詐欺を爲したるものあり此者は軍服を着け第一旅團附の將校なりと稱しハルビン駐屯軍の經理部に赴き第一旅團の證明書を提出し同旅團兵の日當金總額七万一千圓の支拂を要求したり經理部にては毫も疑ふべき理由を有せざるを以て直ちに露清銀行に宛たる同金額の支拂命令書を交附したるに右の士官は露清銀行に赴き其金額の拂渡を受け電話を以てハルビン駐屯軍の本營より三名の兵士を呼寄せ銀行より拂渡したる金額中幾割かの銀貨を携帶せしめて停車場に赴き兵士に銀貨の番を爲すべしと命じて自身は汽車に乗りて何處へか出發したり兵士は廿四時間命の儘同停車場に在りたるも同士官は終に來らざるより始めて疑念を起し本營に通知して大騒ぎとなり詐欺に罹りたるものなりと知れたるも本人の行方は不明なり



アナタの洋服は芝區大門の京都支店都屋で仕立の儘染替たんですか少しも染替とは見えませんチー
ナカ〱染物の進歩も驚た技術た
私の小紋も都屋で染たんですよ其の店は上手で安くて早く勉强して東京一等ですチー
羽根シヨール　絹織シヨール　毛織シヨール
染替　都屋
廉價迅速　御報參上　芝區大門

創業滿廿五年ノ御祝儀トシテ當年ノ新製品中ヨリ三種ヲ選定シ一種五千個ヲ限リ空前ノ低價ニテ來十月二十日ヨリ發賣仕候

純良絹絲　羽織紐特價發賣

紳士用　撚リ返總付キ　丸打長結　定價壹圓七十錢　特價壹圓四拾錢
紳士用　同　籠打中長結　定價八十五錢　特價七拾二錢
淑女用　同流行形　蝶結　定價五十五錢　特價四拾三錢

地方ヨリ御注文ハ御送金ノ節別ニ小包料八錢(五個以下)ヲ要ス
送品ハ御送金着順ニ依リ發賣當日ヨリ順次ニ御送付致候賣切ノ節ハ平遺憾御返金致候

東京市日本橋區芳町　佐竹組糸舗　長電話浪花一五六

婦人界空前の衣裳寶典出づ

衣裳かゞみ

十二月十日發行　婦人世界臨時増刊　定價一冊金拾五錢　郵税一錢五厘

◎禮式用の衣裳　△模様は如何に選ぶか　△婚禮服は如何に選ぶか　△訪問服は如何に選ぶか
◎模様は如何に選ぶべきか　△裾模様と江戸褄と奴褄　△裏模様は如何に選ぶか
◎縮緬の衣裳　△如何なる縮緬が徳用か　△縮緬の模様の選び方　△縮緬の色合ひの選び方　△縮緬の地質の選び方　△長く保つ色と變易き色
◎帶は如何に調製すべき　△各種の帶地の得失如何　△模様と色合の選び方　△腹合せ帶の配合は如何
◎洗濯は如何に爲すべきか　△洗濯水と石鹸の選び方　△色のはげぬ洗濯のし方
◎織物は如何に選ぶか　△各種の織物は如何に選ぶか　△お召は如何に選ぶか　△絲織と一樂の選び方　△紬と銘仙の選び方　△各種の織物の得失如何
◎衣裳の着こなしは如何　△廣業爵伯　△藤間勘右衛門　△芝翫　△梅幸　△喜多村　諸氏の着こなし實驗談
◎衣裳の調製　△柄と色合と體格の調和　△顔の色と衣裳の色調和　△衣裳と半襟との調和
◎衣裳の保存法　△衣裳は何に入れおくか　△衣裳は如何に疊むか　△害蟲は如何に防ぐか
◎汚斑は如何に抜くべきか　△各種のシミを抜く法　△濕垢と黴を抜き取る法

東京京橋南紺屋町　實業之日本社　(振替貯金口座六參貳番)　全國賣捌書店

プレスト洗粉
本品の色は最も皮膚に有効なる原料を以て精製したる者なれば色を白し肌を滑かならしむ
定價(袋入 貳錢 同 五錢 大袋 拾錢 / 罐入 十錢 同 拾五錢 特別督御也)
本舗 東京牛込西五軒町　山本玉川堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉東京唱歌

本年三月東京市が募集したる東京唱歌は應募者百八十一名の內麻布南山小學校敎員宮本晋氏の作歌が第一等の選に當り上田萬年、坂正臣、佐々木信綱の三氏之を添删なし音樂學校助敎授岡野貞一氏之に曲譜を附し左の如く採用する事に決定せり歌の振假名は東京市にて文部省々定に依りしものなり

（一）忠勇無比の國民が　父母といたゞく帝王の　みやこはこゝぞ東京市　平和の氣象あふれたり

（二）太平洋を渡り來て　種おろしたる文明の　花は今しもうるはしく　東亞の空にさき匂ふ

（三）草より出づる月のかげ　隅田川原に照りし頃　築きたてつる道灌の　威名ものこる千代田城

（四）將軍德川家康が　兵馬の權をとりしより　二百六十餘年間　たえず榮えし江戶幕府

（五）今や明治の大御代に　名も宮城と改まり　御稜威かゞやく雲の上　あふげば富士の嶺高し

（六）文武の官衙兩議院　その建築もおごそかに　日比谷、淺草、芝、上野　遊ばむ公園數多し

（七）國家に殉せし人の靈　祭るは九段の靖國社　花は櫻木、武士道の　ほまれは高輪泉岳寺

（八）我等市民が全國に　模範を示す自治體の　行政議政の諸機關も　愈々ます〳〵とゝのひつ

（九）水道工事成りて　よき水わかつ十五區に　市區うるわしく改まり　港もやがて築かれむ

（十）國家有爲の人材を　養ふために設けたる　專門、普通の學校は　官、公、私立數しらず

（十一）中にも小學教育は　未來の市民を薰陶し　養育感化の事業また　日毎に進むうれしさよ

（十二）日本橋區を中心に　賣買、取引繁くも　やすむひまなき繁榮は　まことに東亞の大市場

（十三）經濟界に花をさく　銀行、會社、商店の　營む業も日に增して　盛大にこそ向ふなれ

（十四）あれ見よ天に濛々と　黑き雲はく煙突を　つらなりたてる建物は　製造場と知られたり

（十五）學理を用ひて文明の　社會をかざる瓦斯電氣　或は諸機械美術品　技藝の進步盛なり

（十六）新橋、上野、飯田町　兩國橋の停車場　汽車の往來も絕間なく　貨物の運輸もいそがし

（十七）線路か四方に走せ違ふ　電車の響、雷に似て　暮れば千々の電燈の　光まばゆし不夜の城

（十八）かく隆盛におもむける　我が東京も歐米の　大都の規模にくらぶれば　遜色なしといひがたし

（十九）前途は遠し遙なり　列國環視のなかに立ち　高き品位と活動の　男氣を示すは此時ぞ

（二十）旭日のぼる東洋に　新文明の成らんとき　我等は東京市民ぞと　世界の大路をあゆむべし

可驚一分間の高等髮あらひ
東京衛生試驗所毛髮無害御試驗濟

女俳優川上貞奴佛國みやげ

日本唯一高等髮あらひ

マダム

特色
少しも毛を惡くせず毛を切ず毛をフツクリとして艶を出し束髮、下げ髮には衣類をよごさず僅に一二分間殊に微温湯で洗へます論より證據皆さん洗つて御試しください

定價
鑵入凡十二回洗料金廿五錢送賃四錢
凡八回分洗料金拾五錢全國送賃四錢
見本用貳度分洗料金六錢送料二錢

東京外神田御成道田代町　電話下谷一三九九

マダム　日本一手販賣　地珠堂　田中丹治

東京市內及全國各小間物店賣藥店に賣捌あり

移轉
東京青山原宿二一〇
大日本女學會
電話新橋一八三〇番

水原產科婦人科病院
○神田猿樂町十二　電話本局一八〇九
○外來診察午前中　入院往診隨時
○院內ニ私立產婆學校ノ設アリ

看護婦生徒募集
●十一月十一日新學期開始
●軍人遺族、廢兵家族無料
牛込藏門外　私立日本看護婦學校

胃病良藥　太田胃散

●確實　製造大販賣　卸小賣
●夜具蒲團　蚊帳　ざぶとん
●御好次第山の如し
●上等並等澤山あり
街鐵も外濠線も小川町東明館前に下車を乞
諸官省御用　蒲團大王
東京神田區表神保町二　矢田本店　電話本局（長）二〇一八
小川町南明館勸業場內　矢田支店
綿質保險附
正札附引なし
市內無賃配達

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町　株式會社　十五銀行　電話新橋　三〇〇番　一五三〇番　三一九三番
同日本橋區新乘物町　同　日本橋支店　電話浪花　一九〇一番　三二七四番　三五〇八番
一定期預金　六ヶ月以上年五分
一當座預金　日歩七厘以下
一特別當座預金　同　壹錢

營業案內御入用ナレバ廣告切取御申込被下度候

ラクダ石鹼

ラクダ印麝香石鹼は高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故一度使用せば其香氣五日間馥郁としてかをりを失はざる一大特點を有す

定價　大形廿錢　小形十錢

東京日本橋區本石町三丁目　芳香藥種問屋　本舖　井上太兵衛

東京勸業博覽會一等賞牌受領

美術造花材料

東京市日本橋區横山町壹丁目拾六番地　天野卯兵衛商店　電話浪花一六四三番　振替貯金口座四九七〇番

肺病全快

私儀多治肺病に罹り九死の難に際し偶々新發明の一奇藥に依て全治せるを以て治く世の同病者を救ひ度素志に付望の方は郵券二錢封入御照會ありたし

東京府下大森新井　川名助次郎

恵比壽講賣出　十月廿日廿一日廿二日　三日間

冬物新製品　ふせきれ見切反物　種々取揃置申候

下村呉服店　日本橋區通旅籠町

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

賜宮内省御買上の榮、金牌受領

專賣特許

は

早晩備へねばならぬ家庭の必要品なり一日早く求むれば一日多くの重寶を得

（市内は參上）（說明書進呈）　東京麹町二　版東社

袴乃親王

優美高尚 魁生粹柄　半ゑり帶揚浴衣地類　本店新橋竹川町十二番　ゑり治

○斬新模様　帶片側　同丸帶　單帶地　○絞り模様兵古帶

○裾模様蹴出し○夏長襦袢浴衣地○綸合模様地質に有り

○博多伊達卷○夏ショール○當分本支店は福箱と組半襟有り

支店神田表神保町一番　ゑり治

新橋際博品館内　ゑり治店

御卸部　東京日本橋區長谷川町　美濃磯本店　電話浪花二八五九番

小賣部　本郷區本郷五丁目　美濃磯本郷支店　電話下谷一四一五番

淺草區諏訪町　美濃磯淺草支店

日本橋區佐内町　美濃磯佐内町支店

神田區小川町　美濃磯神田支店

深川高はし際　美濃磯支店

芝區新櫻田町　小田商店

牛込區神樂町一丁目　伊澤商店

四谷區傳馬町一丁目　伊澤支店

十月一日より

一、第十四回新柄陳列會開催

一、懸賞裾模様圖案展覧

一、寄せ切れ見切り反物大賣出し

尚は呉服物の外各種類の日用商品を一層澤山に取揃へ何れも最新流行の物相撰み陳列仕り寫眞場及食堂をも取設け置候間御遊覧被成下候様偏に奉願上候

「デパアトメント、ストーア」の元祖

東京日本橋駿河町

三越呉服店

（振替貯金口座參〇〇番）

本月發行の當店雜誌
（時好）には新題賞賣令
あり御一讀を乞ふ

豫約募集　製本全部既成

豫約金到着次第即日送本す。

東宮侍講 文學博士 本居豐穎　文學博士 木村正辭　落合直文
文學博士 小杉榲邨　文學博士 井上頼圀　監修

松下大三郎　渡邊文雄　編纂

五句索引 **國歌大觀**

全二册

二〇六六頁　四六二倍　總皮 背角皮 六一號　堅牢美本

定價 拾參圓

豫約價（十一月十日限申込）一時拂 七圓五十錢　四回拂 七圓

（十一月卅日限申込）一時拂 七圓五十錢　四回拂 八圓

送料 本 廿八錢（但四回拂は十六錢宛二回）

體裁見本 御申込次第送呈す。

此書は五萬餘首の古歌を網羅し五句中孰れの句よりも全歌を引出し得るものにして索引部歌集部の二編より成る、

▲索引部（千六十頁）は歌集部に載せたる五萬餘首の長短歌を一句一句に分解し之を五十音順に配列し各句の下に書名及び歌集部の番號と符合する番號を記す故に唯一句を知て全歌及び其所在を索ねるを得。

▲歌集部（九百六頁）は古今集以下新續古今に至る廿一代集其外萬葉集新葉集に歴史日記草紙物語の和歌を合せて飜刻し各歌の頭に番號を記して索引に便す。

▲本書の效用 ●引歌の索引●記臆不十分なる和歌の索引●歌の作者の索引●和歌の模範の索引●詠歌境遇の索引●語格異例の索引●類句及修辭法の索引●雅語の出典の索引●時代思想の索引●古歌異同の索引其他甚多し

●此書往年他店の出版せし所爾來再刊の擧無し弊社斯學の爲に之を讀み其出版を引承け嚴密なる訂正を加へ豫約を以て出版す。

發行並申込所　東京京橋區銀座一丁目（振替金口座二一九）　大日本圖書株式會社

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　玉寶堂　電話下谷（特九六五番）（一二四四番）

鳩山法律事務所擴張廣告

今般帝國大學に於て名譽を以て卒業したる法學士鳩山一郎氏を聘し大に業務を擴張す

明治四十年十月

東京市京橋區山城町三番地
鳩山法律事務所

自分儀鳩山法律事務所に於て法律事務の依頼に應ず

法學士 辯護士 鳩山一郎

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話(特)本局六七三番 電話本局四九八番

定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
小口當座預金 同日歩 壹錢壹厘

御中元贈り處

京橋銀座一丁目 木村屋

肺炎に罹りたる後スコット乳薬を用て健全となりたる例證

Always get the Emulsion with this mark—the Fishman—the mark of the "Scott" process!

愚息儀肺炎に罹り満三ヶ月間伏蓐罷在り萬一回復するも結局は肺結核となるべしとの事にて總身肉落ち骨顯れ見るも不憫の容体と相成申候然るに醫師の勸告に由りスコット乳薬を服用せしめ候處未だ一壜も飲み盡さゞるに食慾大に進み總ての經過良好となり現今にては却て罹病前の何れの時よりも健全にて相替らずスコット乳薬を嗜好致候拙者共はスコット乳薬が愚息に與へたる好果を視て右愚息の平癒を以て全くスコット乳薬の効驗の致す所と確認致候

千九百六年三月十一日

シーフキルド、ドールセット街六拾三番地
ジョン、イー、プレーキー

右快復の理由

右ジャツキー、プレーキー、が肺結核とならずして快復したるは全くスコット乳薬中に含有する優逸なるロフォテン大口魚肝油(最上等にして最高價なる肝油)が其肺臟を癒やし其全身に良好堅靭なる筋肉を造成せしむるの精力を有したるが爲めなり

他のありふれたる大口魚肝油乳薬は斯くスコット獨得の完全なる製法に由りて充分に消化し易くせられたる最も純良にして最も活力に富める肝油にて製せられたるものに非らざるが故に斯の如き偉功を奏する能はず

包裝の大口魚を負へる漁夫は前述の如き驚くべき快復が唯偶然のことに非らずして確實の事實なることを保證す

大隈炭

大徳用
山出シノ儘叺入堅炭、土竈、切炭、壹俵八拾貫目内外
八目方ウリ
市内ハ無賃配達

戸澤商店
(電話本局三二〇八)
神田三崎川岸

金石舍美術店
東京神田小川町壹番地
電話本局六八一番

東京勸業博覽會二等賞牌受領

都足袋

○都足袋ハ夙ニ農商務省ニ出願シ登録商標專用ヲ得タル物ナリ
○都足袋ハ外觀優雅ニシテ現ニ都人淑士ノ歡迎ヲ受ケツヽアリ
○都足袋ハ踵ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フコナシ
○都足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ[illegible]合良好縫目破綻ノ憂ナシ
○都足袋ハ材料最モ優逸ニシテ經濟上[illegible]ザル効力ヲ有セリ

三重足袋

◎三重足袋君カ盆ハ甲三重底三重ナルヲ以テ優ニ二足分ノ耐力ヲ有セリ
◎三重足袋君カ盆ハ甲三重底三重ナルヲ以テ脂肪ノ滲出ヲ遮ギリ體温ヲ保ツノ特長アリ

白紺羽二重足袋

○本品ハ高等服裝ノ際ニハ最モ必要ニシテ殊ニ交際場裡且ハ婚姻儀式ヲ擧ゲラル、時杯ニハ本品ニ頼ラザレバ華美ナル服裝ニ缺點ノ譏アル耳ナラズ質素ナル衣服ノ裾ヲ傷フコアル可シ

各種足袋調製所
總本舗 宮内清兵衛
東京日本橋通リ室町三丁目
電話本局一七二 略電カメヤ又カ

御注文品地方ハ代金引替又ハ小包[illegible]當持にて御送附可仕候

秋季の衛生

況鬱症ヒステリー症總て腦神經の不健全なる者に此季節に於て特に「ゼム」の神効を發見さるゝならん快活を本領にせる「ゼム」は萬の悲き秋の風物中にあつて常に健全快活なる心神の作用を保持せしむ

一年を通じて最も胃腸の故障に罹り易は秋季なり其原因は夏季苦熱の餘勞氣候變化期の食慾急進寂冷果實の貪食腦神經の變調より來る影響等種々あるべし「ゼム」の常用は此等の憂を去り心身の快活を增進すべし

要するに秋季は衛生家の最も重き注意を拂ふべき時期なり

東京馬喰町二丁目
日本一手發賣 愛國堂
山崎榮三郎
大阪高麗橋二丁目
支舖
山崎兄弟商會

醫院案內

增築落成
東京日本橋區濱町三丁目七番地
產科婦人科　楠田病院

院長 醫學博士 榊順次郎　婦人科產科 毎日午前診察
副 醫學士 久保德太郎　婦人科的外科 外國留學中
副 醫學士 田代謹二　婦人生殖器病 泌尿器病及內科一般 火木土午後診察
婦人科產科　榊病院
施診火木土曜日午後一時至二時
麴町區三番町三三(電話番町三一九五)

婦人病專門　院長 櫻井克巳
櫻井醫院
芝明舟町十九虎門外宮樣前 電話新橋三三二四

內科小兒科生殖器科
新式鬱血療法　腫物、炎症部ニ應用切ラズ、痛マズ速治ス(入院隨時)
河村 **生春堂醫院**
牛込區タンス町三一 電番三八八

耳鼻咽喉病診察
淺草向柳原町一丁目二番地左衛門橋通り
中村醫院

肋膜、胃腸、腎臟、腦病
官能內科醫院
體格檢査(官公私立學校及檢定受驗者)
神田錦町正則英語學校前(電本一二二五六)

小兒病診療　宅診午前 往診午後
醫學士 **內田愼太郎**
淺草區福井町貳番地 電話下谷七一八番

院長 醫學士 **烏山南壽次郎**
烏山內科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

○院長ドクトル **木村順吉**
婦人科產科　木村病院
京橋卅間堀一丁目角(電話新橋二六七〇番)

耳鼻咽喉病 診療(午前八時ヨリ十時迄 午後五時ヨリ七時迄)
白木耳鼻咽喉科院
淺草區北三筋町五九(小島町電車停留場際)

內山小兒科醫院
午前宅診午後往診 入院隨時
淺草區下平右衛門町十七番地 柳橋通り(電下一三六五)

岩佐病院 日本橋區蠣殼町二町目廿三番地(電話浪花一六九七番)
診察時間 自午前九時至正十二時
內科婦人科 院主 岩佐純
內科 院長ドクトル 岩佐新
(獨乙留學中) 副院長醫學士 高田壽
外科 醫學士 山村正雄
產科婦人科 醫學士 西村漸
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

神田區西今川町三番地(電話本局三〇一九)
內科病特に腦脊髓神經疾患
院長ドクトルメヂチーネル **峰秀世**
峰內科醫院

腦病脊髓病
神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇 神經痛運動障害等
午前 自宅 神田多町壹ノ八
午後 岩佐病院 日本橋區蠣殼町
醫學博士 土田卯三郎

內科一般　板垣亨
東京神田美土代町三丁目十九番地
午前宅診 午後往診
電話本局貳千九百七十番

產科婦人科專門　岩田病院
診察毎日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八

齒科治療 ドクトル **齋藤淸太郎**
麴町有樂町帝國ホテル向(電本千五百十九)

小兒科診察
特ニ 乳兒ノ疾患及ビ育兒法 小兒皮膚病
獨逸新式種痘 日曜午前
拙者儀久シク獨逸伯林大學ニ於テ小兒科專攻歸朝後毎日診療ニ從事ス
ドクトルメヂチーネル **長井岩雄**
東京日本橋區數寄屋町一(電本百八十)

日本興業銀行
東京市麴町區錢瓶町(常盤橋內)
電話本局 一、二八〇番 三、三〇〇番 四一番 (特)三七番 一〇二番

資本金壹千七百五拾萬圓
營業科目
一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金

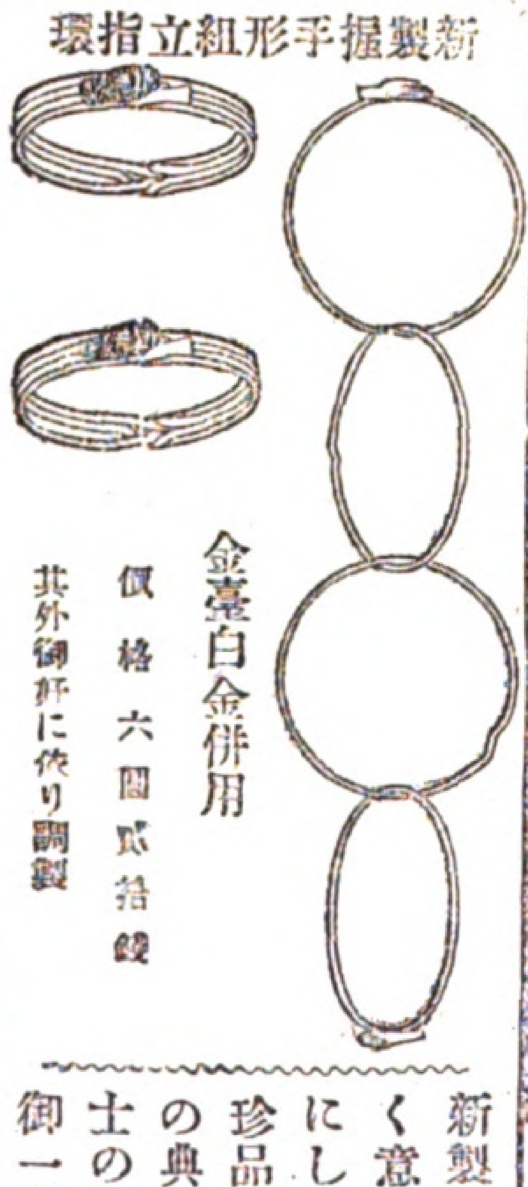
大勝堂
東京銀座通尾張町
電話新橋二六三番

東京市日本橋區小舟町三ノ一
株式會社 **第三銀行**
電話浪花四四一二番 浪花四五一一番
定期預金 一ケ年 年五分
當座預金 百圓に付日歩 八厘
別口當座 同日歩 壹錢
全國送金 手數料
其他銀行一般の業務便宜取扱可申候

新形ボアー。マフ
絹ショール。毛布
膝掛。月根蒲團
小兒帽子。リボン
造花。西洋小間物
御婦人手袋。沓下
東京牛込區神樂坂下
朝日堂
電話番町一六九九番

十九日ヨリ三日間 見切半ゑり賣升
神田ゑり肥
本店 神田區表神保町
出店 新橋勸工場二階上?

東京日本橋區人形町通り



新製握手形組立指環は上圖に示す如く意匠輕妙にして組み外し自在輕便にして格安最も時勢の粹を穿ちたる珍品既に業成りオ士佳人の將に華燭の典を擧げんとするかの夜必ず都人士の御嗜好に投合可致と存候間幸に御一願を給へ

貴金屬細工袋物商
東京日本橋區人形町通り
澤田治助
電話浪花二五六九番(振替貯金口座一一一七二番)

○色白く艶をだす最良之化粧石鹼(大形廿錢 小形拾錢)
松澤ホーサン石鹼
○到る所に販賣す(にせ物)あり松澤ホーサン石鹼と御買求を乞ふ
東京本石町四丁目
芳香藥種問屋
ムスク香水本舖
松澤常吉
(振替貯金四四四七番)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
東京區數寄屋橋外 博報堂
神田三河町 弘報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

洗用ワッセル

◉此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず實用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◉用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシヤツの如きは（拾貳匁）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價　拾貳匁入 金拾五錢　六匁入 金八錢　袋入二錢

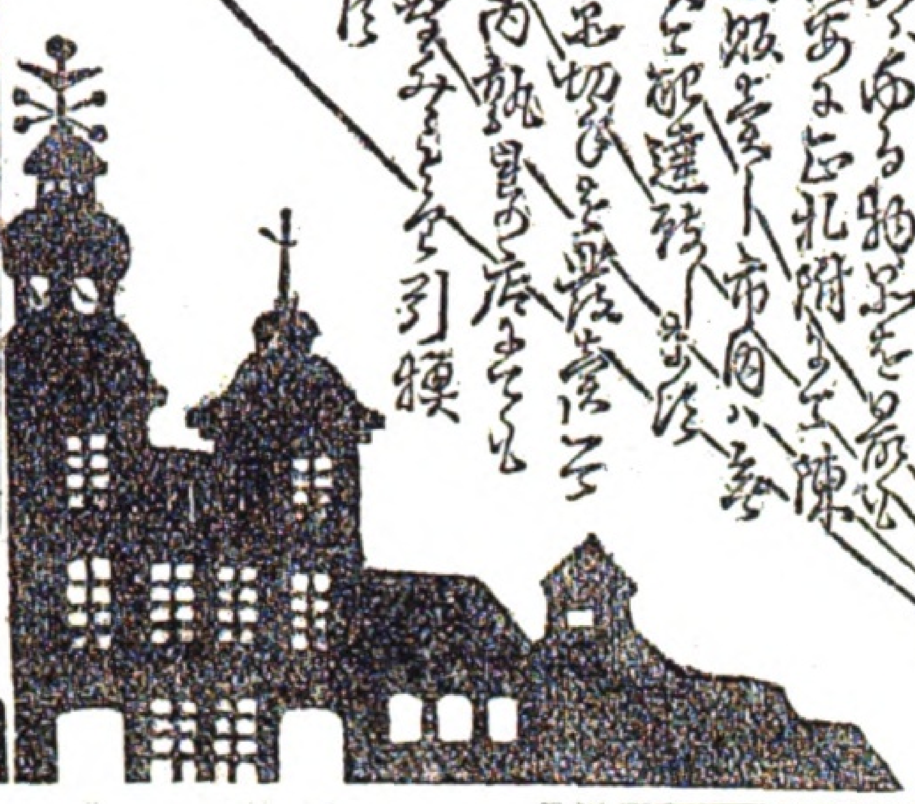
芳香御肌洗粉ワッセル

◉此肌洗粉ワッセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價　最上 金七拾五錢 金貳拾錢　普通 五拾錢 六錢　參拾錢 三錢　拾七錢

東京市京橋區三十間堀三丁目電話新橋一七二三
英國製ワッセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元
三友商會

日本第一の大勸業場



本場の特色
あらゆる物品を最も廉に
特に正札附にて陳列
販賣し市内八ヶ所に
支部連絡し
物品切符を發賣す
館内執務の屋上庭
には呈茶を引換

ムスク香水

（大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢）
◎本品は永く香の失せぬ點に於て無比なり
東京日本橋區本石町四丁目
ホーナン石鹸本舗
本舗　松澤常吉

O.Y.

新荷到着御披露

一婦人洋服地及袴地幷帽子、羽根、手袋、沓下、駄鳥及毛皮ボアー、マフ、造花、リボン、櫛、ブロッチ、ハンカチーフ、レース類、化粧品一式其他洋織物小間物各種

婦人洋服裁縫

東京麹町貳丁目
八木屋號　大國市藏
（電話番町七四二番）

伯爵東久世通禧閣下題字
農學博士橫井時敬先生序
農學博士澤村眞先生文
福島縣河沼農學校長 片山熊太郎先生著

園藝辭典

▶金緣菊判半截形◀
製本既成　即日發送

口繪　○菊花○眞美人草○アラセイトウ○パンジー○ダーリヤ（石版）◎三色版◎
附錄　園藝家の錦囊（實際必讀）

箱入上製▲全一冊定價▲一圓五十錢▲郵税八錢▲
特價壹圓廿錢
十月卅日郵税八錢▲特價期限▲見本進呈▲

本書は我國に於ける名聲を有し斯道のオーソリチーたる片山先生が多年研究の結果に成れる者にして凡そ園藝辭典の其の園藝植物は勿論栽培耕作の方法●器具●肥料●氣象●土壤●害蟲等より活花の如き盆栽等に至るまで凡て園藝に關する事項は細大洩らさず之を本書四百頁の裡に各種植物に關する古今の詩歌とを以て收め補ふるに百數十の挿畫として盡くる所なし加之ば其の精確周到なるは勿論趣味津々たる索引の方法亦一新機軸を出し價格低廉にして裝訂の完備は燦として眼前に開展せん實に家庭園藝の好指南たり農事講習の好資料たり學校園の開設及び保護の好指針たり各種農學生の好參考書たり中學生博物の研究の好師友たり苟も園藝農事に多少の趣味を有し利害を有する人士は必ず本書を身邊に伴ふるを忘るべからず（總頁數約五百頁）

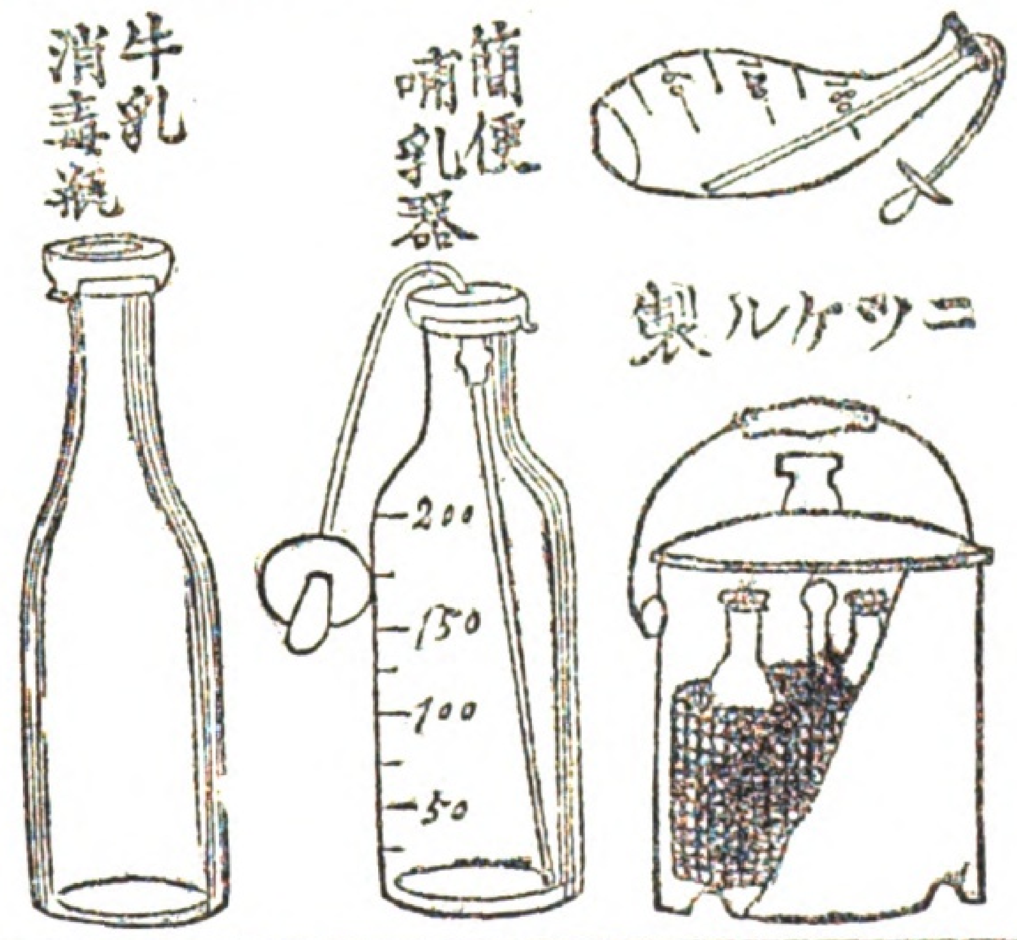
發兌　東京神田猿樂町二番地 振替口座第八五七〇番　建文館（大賣捌所）　東京 同文館　東京堂

今般左の地へ轉居候に附一層の御信愛願上候

▲完全消毒壜　▲簡便哺乳器
▲輕便防腐器　▲ホーオー印ミルク

元皇孫殿下侍醫小原先生、醫學博士榊先生、醫學博士瀨川先生、醫學博士佐々木先生、醫學博士金杉先生、ドクトル森永先生、其他諸先生の御賞用御贊稱の榮を蒙り精々製品注意仕候に付御信用願上候。

一本の壜にて内部のゴム板の取換により消毒壜又哺乳瓶ともなります又其蓋の開閉は甚容易輕便なる事他に類はありません品質良く丈夫にて直段も割合に廉直です防腐器は從來のものより丈夫なる拵へて湯の沸き早く隨て炭の入用少なく甚便利です



○ホーオーミルク　本邦製の「ミルク」にして外國製品に優るとの瀨川博士の高評を蒙り候御試用の上高評願候

各地有名なる藥店、西洋食料品店、硝子器店に販賣せり若しなき時は御報次第御送申候

專賣特許品製造發賣元
東京神田區表神保町一番地（新聲館隣）
藥劑師　植木雄飛
振替貯金口座（第六二九一番）

尙報知社代理部にても取次します

最上醬油　キハク印

於淡路島博覽會　名譽大賞牌受領

キハク印醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟てあると云ふことを御ためし願ます

釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門
信略號（キハク又ハヘル）

東京支店　日本橋區小網町三丁目　電話浪花五七七四　中野長兵衛

實用新案特許　藤井式衣桁

定價　甲 六圓　乙 五圓五十錢　丙 五圓

東京市麹町區三番丁廿九番地
掛物箱製造販賣
一夜新　藤井兵太郎

明治四十年十月廿日發行（每月五日廿日二回）（定價金三錢一ヶ月六錢郵税不要）（廣告料一行金六拾錢）發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 大久保高明　發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所　印刷所 東京牛込區市ヶ谷加賀町 秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◉評議員會日取　十月分評議員會は左の如し。

十月廿三日（第四水曜日午後二時）

◉理事、顧問會議　本月十六日午後一時より開會左の諸氏出席會務上に付審議する處ありて午後四時過ぎ散會せり

會長岩倉久子　理事岡部坻子　同谷玖満子　顧問岡部子爵　同清浦子爵　同松平男爵　同澁澤男爵　佐藤事務長代務

◉東宮殿下奉送　今回御渡韓あらせらるゝ東宮殿下は御豫定の如く隨行者各官を從へさせられ、本月十日午前十時廿五分新橋驛を御發車あらせられたり。當日本會より左の諸氏御奉送申上たり。

理事岡部坻子、長谷川辰子、清浦錬子、珍田岩子、高木富子、有地捨子、佐藤靜子、千家俊子、原鍉子、高木錬子、中山幸子、佐々木芳子、三井榮子、（以上各評議員）

新山雅樂子、仁杉欣子、松崎悦子、東村峰子、寺井豐子、川崎安子、吉村錢子、流山市子、秋間爲子、杉本幸子、長田亥勢子、飯島鶴子、横瀬むら子、山本すゞ子、清水よね子、星野もと子、小川楓子、原とく子、木村つれの、堀内みん子、鹽田幸子、託摩眞喜子、（以上東京支部幹事）本支部事務員數名

◉中山一位局御葬儀　本月五日御薨去ありし中山一位局の御葬儀は豫定の如く本月十三日神葬式に依り小石川豐島岡に於て執行あられ當日本會よりは左の諸氏御會葬申上たり。

監事三井苞子代、二條治子、黒木百子、岩倉極子、濱尾作子、宇佐川種子、坂井春子、佐藤靜子、千家俊子、鳩山春子、飛光子、山脇房子（以上評議員）横瀬むら子、香取いし子、馬島國子、堀内みん子、山本すゞ子、内海きく子、清水とく子、沼崎愛子、笠井梅野、川崎安子、中澤はる子、木村常野、小川楓子、長原なか子、杉本幸子　淺尾忠子、渡邊源子、阿部たか子、岩佐ちか子（以上東京支部幹事）

◉總裁殿下の台臨　本月十三日埼玉縣浦和町に於て開催せる埼玉支部總會へ台臨の總裁殿下は岩倉會長、谷理事、原口、片岡、中山、内山、近藤、藤井の各評議員事務長補助高松鐵太郎氏等を隨へさせられ、同日午前八時五十五分上野驛御發車午後五時卅三分浦和發の列車にて御歸京遊ばされたり。當日左の諸氏奉送迎せられたり。

（奉送者）

島津理事代、山内理事代、島津顧問代、曾田富子、淺尾忠子、笠井梅野、長田亥勢子、中野せん子、馬島國子、中居とく子、今井てう子、杉本幸子、横瀬武亥子、飯島鶴子、長谷川小枝子、笹岡さち子、跡見花蹊、坂井春子、佐藤靜子、大谷加知子、菊地成子、戸田時子、原鍉子、古市幸子（以上評議員）

（奉迎者）

島津理事代、島津顧問代、山内理事代、坂井春子、阿部篤子、佐藤靜子、菊池成子、戸田時子、古市幸子、福島貞子（以上評議員）

佐藤會計監督

關万代子、柘植愛子、牧田ミツ子、石崎つろ子、馬島國子、背山幸子、濱面民子、杉本幸子代、長田亥勢子代、今井てう子代（以上東京支部幹事）本支部事務員數名

◉病氣見舞　評議員酒井伯爵夫人病氣に付去十二日濱尾評議員は本會を代表して同氏を訪問ありたり

◎埼玉支部第一回總會

同支部第一回總會は豫定の如く本月十三日浦和町中學校運動場に於て開會せられたり。總裁殿下は岩倉會長始め諸役員を隨へて同地へ台臨あらせられ暫時赤十字社支部に御休憩の上午前十一時式場に成らせらる。大久保支部長は殿下に對し職員名簿及會員表を捧呈し、夫れより開會の辭を述べ、次て三十七八年戰役に關し當支部に下し給ひたる令旨を奉讀せり。次て殿下には御諭旨を賜はる、大久保支部長は謹て奉答の辭を述べ、了つて會務を報告し、岩倉會長の祝辭及び來賓並に會員總代の祝辭等あり總裁殿下には有功者へ有功章を御親授あらせられ、且つ癈兵、遺族に特別御下賜等あり、會長よりは癈兵、遺族に對し、諄々慰藉する所ありて同十一時四十分閉會を告げたり。

◉松江盲啞學校台臨　島根支部總會後總裁殿下に於かせられては、九月廿七日を以て松江盲啞學校へ台臨あらせられ、又山陰慈育家庭學院及松江育兒院へは鍋島御用掛を御使として遣はされたり、尚各所へ御菓子料金拾圓宛を賜はりたり。

◉古市會長代理の歸京　島根支部濱田總會へ會長代理として出張中の評議員古市かう子氏は同總會の式を了へて本月八日午後八時廿分新橋驛着列車にて無事歸京せられたり當日出迎者左の如し。

岩倉會長代、清浦錬子、千家俊子、高木錬子、中山幸子、中井かれ子、片山國子、仁杉欣子、川崎安子、佐久間勝子、森島榮子、石川田鶴子（本支部役員）其他本支部事務員等數名

◎大阪支部授産場の近況　大阪支部授産場は其事業の盛大なると共に、又機關の完備せるは全國の模範授産場として好評あり、曾て總裁殿下の當授産場に台臨を辱うし、實地作業に就いて、廣岡評議員の綿密周到なる説明を聞召して、場内くまなく御巡覽あらせられ、且つ金五拾圓の御下賜ありしが、今回島根支部總會へ台臨あらせらるゝ途次、大阪御旅館に於て同場技術の進歩せるを台覽に供すべく、種々の製作品を差出せり、特に遺族中文字なかりし寡婦をあつめ、讀書習字等の稽古をなさしめしに、其が中の進歩せるもの、手紙なども御覽に供へしかば、御感ありたるやに被伺たり、又千家夫人は、特に同所へ參觀せられたり。當日は本所常務幹事大谷、冲野の兩氏其他役員周旋案内の勞を取られたり、此節は恰かも多數の郵便局職員服（價格金二萬圓）の請負調達中にて全場の工女、即軍人遺族約七十餘名は、孜々として作業に從事中にて、其分業的に從ひ奮闘的態度を以て營々として働ける、其敏活なる技術と動作とには讃嘆の外なかりき。遺族合宿所は疊を敷詰たる廣き一室にして、遺族中特別の事情ある者の寄宿しある處にて、其中には兒童を同伴せるものあり、是等兒童の中、幼稚園に入園し得らるゝ者は、支部の企畵の下に通園させある等、何れを見ても同情の種ならざるはなし。斯くて貯藏庫に到れば、數知れぬ仕上品山の如く積み重ねありて、其規模の廣大なると亦豫想の外なりき。唯愛に遺憾とする處は、元來本場は曾て倉庫業に使用されし土藏家屋を使用せるものにて、室内は薄暗くして、光線と空氣との供給の不足なるかの如く推せらるゝ故に、多數の工女の中に形容憔悴したる者を偶々見るとあるも、一ツの原因は此家屋缺點より來るにはあらざるか、此以外に於ては殆ど間然する處なく其活動の有樣洵に本會唯一の模範授産場とも稱すべきか、當日服部兵庫支部長も千家夫人と同行參觀せられたり。

◎事務報告　千葉支部（本月九日附）愛知支部（本月十日附）を以て何れも三十九年中事務成蹟報告書を提出せり

愛國婦人會會員女子人口比較表　明治四十年八月末日現在

支部名	特別會員	通常會員	計	三十六年末女子人口	女子人口百人ニ付會員比例	賛助員
石川	一、九九一	一九、五二四	二一、五一五	三八五、四七八	五、五八	六一
山口	八七九	二五、九四八	二六、八二七	五〇六、九二〇	五、二九	八
山形	九八八	二〇、七一三	二一、七〇一	四三九、六一八	四、九四	一〇三
愛知	一、五六二	三六、二七五	三七、八三七	八六八、五三八	四、三六	六
福岡	二、八一四	三〇、四一〇	三三、二二四	七七二、七四三	四、三〇	四
岡山	一、一〇三	二二、六四〇	二三、七四三	五七七、二七二	四、一一	一二
兵庫	二、二八七	三四、二七六	三六、五六三	八九三、七三四	四、〇九	一七
富山	九八九	一三、三一三	一四、三〇二	三八四、九八二	三、七一	｜
北海道及函館	三、二六六	一五、三五五	一八、六二一	五〇七、六三八	三、六七	六二
愛媛	五四四	一八、二〇三	一八、七四七	四九九、六二三	三、六三	四〇
神奈川	一、七六四	一六、三一九	一八、〇八三	五一一、三九六	三、六二	四二
熊本	二、八七〇	一八、〇八一	二〇、九五一	六一〇、四一一	三、四二	一三
香川	八二三	一〇、六九一	一一、五一四	三四七、八九〇	三、三一	｜
京都	二、三六九	一四、八二四	一七、一九三	五二一、三九五	三、三〇	一九
青森	一、三九七	九、〇九三	一〇、四九〇	三二二、二一一	三、二六	九
秋田	八二二	一二、〇二九	一二、八五一	四〇三、九四六	三、一八	二
島根	三八六	一〇、八八一	一一、二六七	三六二、六三五	三、一一	｜
群馬	一、五〇六	一二、〇一〇	一三、五一六	四五四、一七一	二、九八	二三三
福井	八三四	八、〇〇〇	八、八三四	三〇二、一五四	二、九一	一
宮崎	三一一	六、八七六	七、一八七	二四七、二五二	二、八六	一八
佐賀	九一二	八、四一九	九、三三一	三二七、六七八	二、八五	二
長崎	三、二六三	一〇、六〇九	一三、八七二	四八九、三五〇	二、八三	二
宮城	一、四八一	一〇、五九六	一二、〇七七	四四五、〇四七	二、七一	一一
大分	八五一	一〇、四二五	一一、二七六	四三〇、〇二五	二、六二	三
栃木	八三九	一〇、六四二	一一、四八一	四五〇、一二六	二、五四	七
三重	四三一	一二、四九五	一二、九二六	五二二、〇四三	二、四三	七一
奈良	二八九	六、一八二	六、四七一	二七八、一九一	二、三三	｜
德島	三五三	七、四一六	七、七六九	三五二、六〇八	二、二〇	五
岩手	六八三	七、四七六	八、一五九	三六九、二七八	二、二〇	一
大阪	三、二六四	一五、四八四	一八、七四八	八六三、四〇五	二、一七	一七
東京	八、四五九	一六、〇九四	二四、五五三	三一八、二四五	二、一二	｜
高知	二六二	六、四〇二	六、六六四	一五七、五一四	二、〇九	五九
靜岡	七〇〇	一二、一六八	一二、八六八	六四〇、八四八	二、〇一	｜
福島	一、二五[illegible]	一〇、三六〇	一一、六一三	五八二、一五六	一、九九	二〇
滋賀	四六三	六、二一一	六、六七四	三六四、六八八	一、八三	一
廣島	一、六二二	一二、〇四八	一三、六七〇	六五六、七八二	一、八三	｜
千葉	一、〇二五	一〇、七一四	一一、七三九	七四六、六五五	一、七九	二八
長野	九七六	一〇、三五九	一一、三三五	二七二、一四八	一、六八	二
山梨	三九九	四、〇〇六	四、四〇五	八九九、〇二一	一、六二	｜
新潟	一、一八九	一二、七一九	一三、九〇八	六〇〇、四一三	一、五五	三四
茨城	五三六	八、四六三	八、九九九	六二七、五五六	一、五〇	一
埼玉	三六〇	八、〇二八	八、三八八	五九四、九八五	一、三四	二七
鹿兒島	一、〇九八	五、九三七	七、〇三五	五〇二、六五八	一、一八	八
岐阜	七八八	四、六二一	五、四〇九	三五〇、〇六九	一、〇八	一
和歌山	二九二	三、四六八	三、七六〇	二一七、五四一	一、〇七	一
鳥取	一七二	二、〇六五	二、二三七	六七四、五一八	一、〇三	五
臺灣	一、三二四	一一、五〇〇	一二、八二四	一、四〇二、七七一	〇、九一	二二
沖縄	三四五	一、六二六	一、九七一	二三九、二二七	〇、八二	｜
海外	七六〇	二、一八四	二、九四四	｜	｜	二、七一三
計	六三、八八四	六〇四、一六八	六六八、〇五二	二五、三一三、〇四〇	二、六四	三、七〇九

備考　支部ノ配列ハ會員比例數ノ最モ多キモノヨリ順次配列ス
北海道及函館ノ兩支部會員數ハ合算シテ揭載セリ而シテ函館支部會員數ハ特別五百十九人通常千八百二人ニシテ他ハ北海道支部會員數ナリ

◉評議員伯爵夫人酒井夏子氏は兼て御病氣の處藥石効なく本月十八日午後三時終に逝去せられたり同氏は本會の創立當時より會務上に付盡力せられ殊に昨年秋田支部總會に總裁　殿下御台臨の際は蒲柳の身を以て會長代理として選ばれて出張せられたり▲阿部評議員は御悔みとして去る十九日同邸へ出張せり▲追つて御葬儀は本月二十二日午後一時との事なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛知支部内巡回遊説日記(一)

富樫眞壽子

九月三十日　午前七時四十五分新橋發午後四時十分着名柴田、村手兩事務員の案內にて山田旅館へ投す夕飯後杉山覺三郎氏來訪會務上に就き種々打合たり

十月一日　午前八時名古屋發柴田縣務員同行豐橋へ赴く本多幹事齋藤郡書記島田事務員等の出迎を受け岡田旅館へ入り晝飯を喫す市川郡長來訪せらる零時三十分牟呂波止場より乘船田原町へ着したるは午後一時四十分なりき三時半より當行寺に於て講話會開催土居町長初め幹事會員出席本多幹事開會の辭を述べ次に講話、六時閉會木戸三旅館に投す山內、野村、芝田の各會員來訪せらる

十月二日　午前十時出發本多幹事朝倉事務員芝田會員同伴野田村西園寺に到りたり河合村長同幹事來訪せり午後三時より開催聽衆約百五十餘名例の如く講話し六時閉會せり尙村長の希望により同夜八時半より再び開會聽衆約二百餘名十一時閉會同夜は當寺に宿泊す

十月三日　午前九時出發本多幹事芝田會員同行泉村に到りたり十一時半會場なる成道寺へ着鈴木幹事河合會員初め役場吏員來訪午後三時より開會聽衆約百七十餘名本多幹事開會の辭を述へ次に講話、六時閉會夜再び村長の希望に從ひ開會聽衆約百餘名例の如く講話をなし十一時半閉會當寺に宿泊す

十月四日　午前九時本多幹事同行出發福江町に着したるは十一時半なりき清田村に會員四名出迎はる一先井筒旅館に入り晝飯を喫す奥村會員外四名來訪午後三時より長吾寺に於て開催山田町長初め役場吏員出席一般聽衆約百餘名例の如く順序を追ひ講話を了へたるは六時半なりき朝倉事務員は野田より先發せられたり

渥美郡幹事部內外一郡回日割左の如し

渥美郡幹事部內		寶飯郡幹事部內	
十月一日	田原町	十月八日	御津村大字廣石
同　二日	野田村	同　九日	同　村同上佐脇
同　三日	泉　村	同　十日	赤　坂　町
同　四日	福江村	同十一日	小坂村大字小坂井
同　五日	伊良湖村	同十二日	下地町大字下地
同　六日	老津村	同十三日	三　谷　町
同　七日	二川村	同十四日	形原村大字形原

各支部の状況

●東京支部　曩に戰死、准戰死者及び癈兵並に同家族に生業を授くる目的を以て授産事業を擴張し各授産場に足袋縫を增設して從業者に對する奬勵法を設けたるが希望の者は此の際奮つて從業を望むなり而して場所及び規程等左の如し

▲牛ヶ淵授産場(麹町區九段坂下牛ヶ淵公園)▲赤阪授産場(赤坂區新坂町六十九番地)▲本所授産場(本所區花町二十五番地)

▲稽粁、稽下及足袋縫工賃は熟練と勉强とに依りて一日金三十錢以上を得るに至るべきも新規從業のものに付稽粁、稽下にありては練習中二十日間は工賃の外に一日金五錢足袋縫にありては練習中三十日間は金十錢の增賃を給す

▲奬勵のため規定工料の外稽粁、稽下一着につき金一錢五厘の割合足袋縫は出來工料金額の二割を毎月末賞與す

▲所在授産場より約廿町以外に住居し定時間に出頭するものには當分の內電車賃として一日金五錢を支給す

▲赤阪授産場には幼兒保育所の設備あるに依り幼兒を携帶するも差支へなし

▲自宅に於て縫製を望むものは前記授産場に就きて聞合はすべし

麹町幹事部にては來る廿七日午後一時より九段偕行社に於て秋期懇親會を開き餘興には海老一の神樂其他講談、婦人劍舞等ある由

●京都支部　府下水害地へ寄贈したる慰問袋及寄付金の募集高は慰問袋八千二百九十五個、寄付金五百九十五圓七十二錢に達したり右に付本月八日午後同會事務所に市內各聯合區の役員會を開き寄贈金品募集上に盡力せし會員の功勞調査に關する協議をなしたるが結局委員を設けて調査せしむることとなり委員長に支部副田才子外委員廿五名を選定し引續き委員會を開き調査をなせり

●兵庫支部　姫路市及飾磨郡に於ける會員は漸次增加しつゝあり九月末日現在を上ぐれば左の如し

▲姫路市　有功一等一名、同二等一名、同三等八名、特別百七十三名、通常一千二名、合計一千百八十五名

▲飾磨郡　有功二等一名、同三等三名、特別四十五名通常二千二百三十三名、合計二千二百八十一名

●岡山支部　吉備郡幹事部內會員は千八百十二名募集の豫定なるが目下僅六百二十名の會員不足せるを以て各部の委員幹事率先して專ら募集中なり

●島根支部　邇摩郡幹事部總會は九月卅日を以て開催せり式場は郡議事室を以て之に充て正面に一段高く會長代理の席を設け側らに唐銅の花瓶に秋草を活け背後には金地無溪山の屏風を建て會長席の左側に小池本部事務員、岡崎支部長代理、彦阪、向阪兩評議員來賓の席、右側には藤本委員片野幹事部顧問、片野幹事部長、村町委員、幹事部事務員の席を設け以下を幹事部長、遺族及び會員の席とせり來會者三百餘名、來賓は杉本區裁判所判事、武田衞戍病院支所長、濱田警察署長、佐藤郡立農學校長、勝部尋高校長、福間田平兩縣議員、上杉濱銀支店長、松尾石銀支店長、上村監督書記にて十一時三十分第一報鐘にて一同入場、第二報鐘にて幹事部長代理阪田メツ子(幹事部長片野タキ子欠席)の先導にて古市夫人以下一行着席し高等小學生徒二十名「君が代」を唱歌す一同最敬禮、阪田幹事部長代理開會の辭を述べ了るや古市夫人は席上に立つて岩倉會長の祝詞を朗讀し續いて片野幹事部長、松永支部長、片野幹事部顧問の祝辭等ありて正午十二時式を了せり

●愛媛支部　支部の經營に係る麥稈經木眞田事業の經過は三十八年四月各郡より生徒を召集して麥稈經木眞田講習會を開始し數回は岡山縣人西井季市氏を雇ひて斯業の奬勵を計り仝年七月七日を以て講習を終へ生徒は郷里に歸らしめて斯業を開始する事に努めたるも販路開通の便なきより止むなく停止の姿なりしが仝年十月頃溫泉郡伊臺村松本敎次氏幹事長となりて溫泉郡松山市に麥稈經木眞田組合を組織し縣廳にても又香川縣人山本元造氏を教師に聘して各郡に出張せしめ講習會を開きたるより大に其功を奏すると共に組合も又非常の盡力をなしたる結果昨年の頃より販路擴張の途漸く開け各郡に於ても從て斯業に從事する者增加したるも獨り松山市は機業の盛なるより斯業に從事する者少なき有樣なりしが本年四月頃勤儉貯蓄奬勵の爲め全縣通論氏來縣し各所に講話會を開きし結果當市中流以上及小學生徒も多少其必要なるを悟りし者の如く近來斯業に從事する者增加し去月末日の現在は數百名の多きに及びたるが尙慈惠會の兒童に於ても斯業を奬勵せしめんと昨今有志者は勸誘中なり

●山口支部　第一回總會を來る十一月廿四日山口に於て開催せらるゝに付き佐波郡より參列の軍人遺族は百四十七人及癈兵は廿四名なりと因に全會員にて參列せんとするものは其町村受持幹事へ申出すべしとのことなり

●熊本支部　現在會員數は二萬千二十七人にして內通常會員一萬八千百五十六人特別會員二千八百七十一名なるが地方別にすれば

區分	人員	區分	人員
飽託郡	一、七八八	葦北郡	一、五二五
玉名郡	四、六七六	熊本市	一、七八八
阿蘇郡	二、一一九	菊池郡	一、九一〇
上益城郡	一、七七七	下益城郡	一、〇一二
鹿本郡	一、二一二	八代郡	一、四四五
宇土郡	七二七	球磨郡	一、〇〇六
天草郡	一、〇四二	計	二一、〇二七

▲優待門標　過日來縣下二千百餘名の遺族及癈兵に對し頒附すべき同會優待員門標の調製を急ぎつゝありしが此程悉皆出來したるを以て夫々各郡幹事部に向け發送せり▲會員の增加　天草郡阪瀨川志岐の兩村は先般來押支部長の富岡町滯在中出張して入會を勸誘せられしより村長幹事其他有志諸氏の盡力にて當時多數の入會者ありしが今回阪瀨川村に於ては村長平山郷士幹事田尻じつ子志岐村に於ては幹事平井ひで子及び平井志壽馬諸氏の紹介により多數の入會ありたり

●青森支部　幹事高柳とよ子、仝菅沼すみ子、仝幹事棟方ひさ子、仝相馬いそ子、同猪股きく子の諸氏には本市主催の遺族、癈兵を慰問し現況視察の爲め本月一日より行動を始めたり

●福島支部　九月末日の現在會員は左の如し

區分	人員	區分	人員
福島市	八五五	信夫郡	九四五
伊達郡	一二二一	安達郡	八六七
安積郡	六六一	岩瀬郡	四一二
南會津郡	一二二	北會津郡	四五
耶麻郡	三九七	河沼郡	三一六
大沼郡	一九八	東白川郡	一八五
西白河郡	六〇九	石川郡	四六九
田村郡	四八一	石城郡	一九四〇
双葉郡	二二八	相馬郡	七〇〇
若松市	四二二	合計	一一六一三

▲活動寫眞會　支部の發起にて臺灣紹介活動寫眞會を開き其收益金を福島育兒院に寄附の目的を以て本月十三日より當市新開座に於て向ふ三日間開催せり夜は生蕃人四名、臺灣人四名出場して種々實況をなせり

●長野支部　幹事部內會員の現在統計は左の如し

里山邊	五二	入山邊	五四	本郷	一二六
岡田	四八	錦部	一	會田	三〇
中川	二八	五常	一八	本城	一七
坂北	三二	麻績	五九	坂井	一二
日向	二	生坂	〇	東川手	四四
中川手	四七	上川手	三	島內	六
島立	三六	和田	三七	神林	三一
新	五八	波多	六五	山形	三一
朝日	四三	今井	五七	笹賀	二〇
洗馬	三三	宗賀	四六	廣丘	八三
芳川	二九	松本	五四	中山	四五
寿	二二	片丘	一〇	岡原	二三
筑摩地	二四	計	一、三一六		

●栃木支部　中山支部長並に深町副長以下幹事諸氏は戰役を遠ざかるに隨ひ同情の薄らぎ行かんとする宇都宮市の癈兵並に遺族六十余名を慰勞し其の情を和げんとし本月四日五日の兩日左の如く巡回せり

四日上町方面
中山支部長、深町副長、安井幹事、矢島幹事、河合幹事、富澤事務員

五日下町方面
中山支部長、深町副長、本多幹事長、中山幹事、田中幹事、宮澤事務員

●宮城支部　桃生郡小野村に於ては其村地方部規約に依り客月廿一日第一回總會を舉行せり支部よりは龜井支部長、石橋副長、石森主事出張せり到着後同村地方委員部長齋藤かつ子の案內にて同部長庭內に設けたる式場に臨み定めの順序により式を了し後ち參列遺族拾壹名に對し式場に於て支部長並に副長より懇々慰諭を爲したるに一同感涙せり後ち設備の蓄音機餘興に移り會衆に大なる滿足を與へて午後三時半散會せり因記す地方部に於ては總會の普及並に事業の發展上よりして十六ヶ條よりなる規約を設け專ら奬勵勸誘に盡力しつゝあり

●韓國委員本部　本年八月起りたる騷擾事件に際し負傷したる我將校以下の諸氏を收容治療に從事したる同國委員本部の救護班作業に就ては曾て兒玉相談役の談話中にもありしが今回其實況を衞戍病院に於て撮影せしものを中川同病院長より鶴原本部長を經て總裁殿下へ贈呈ありたり因記す本號附錄は其の光景の一部なり

愛國美譚

あづま撫子

京橋區南佐柄木町四番地に、加藤はなと呼べる婦人あり、其が一子榮次郎氏は過にし日露の戰役に際し、身軍籍にあるを以て、召されて君國の急に赴きしが、不幸にして流行病に罹り、清國盛京省遼陽兵站病院に於て、萬斛の涙を呑んで病死せるこそ悲しけれ。そが遺族の愁傷さはなか／＼なる其中に、はな女は雄々しくも生活の家業たる豆腐製造を勵み、雨の夜風の夕べ、只管家運の回復を計らざる日とてはなく、斯く、辛くも細き煙りに其日を過し行く身の上にてありながら、慈善事業には、其志いと厚く、既に赤十字社へ入社して愛國の至誠をこめ大和撫子の眞心を表はし居たりしが、其上更に我會が軍人戰死者遺族並に癈兵の貧困者を救護するを聞き、且つ前年東京支部總會の節、畏れ多くも總裁殿下より特賜金を拜受したる等の事蹟に感じ今回一時金拾五圓を出して特別會員に入會を申込めり。我會にては、遺族並に癈兵家族にして、家計困難なる者に對しては、會費を免除すべしとの內規あるに依り、其趣旨を示して右出金を謝絶したるも、強ひて救護金の一端に加へられたしと申出たる由。家計元より豐ならざるはな女にして、このふるまひある誰か其奇特に泣かざらん。世は漸く奢侈の風長じ虛榮心のみはびこりて、慈善博愛は愚かつくすべき義理すらも缺く淡き情の世の中に、斯る篤志の婦人のあるこそ嬉しともうれしけれ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第百三十八號附錄

明治四十年十月二十日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

韓國委員本部救護部員の過ぐる淸國事變の際同地衛戍病院に於いて戰傷者の收容救護に從事せる光景の一班
（圖の中央に起立せられたるは鶴原本部長にて向うて右前方の寢臺に腰掛けられたるは目賀田副長なり）

發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 大久保高明　發行所 愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN